

2020年度

社会福祉法人無量壽会

事業報告

目 次

1	法人全体事業方針(総括)	P.1
3	特別養護老人ホーム寶樹苑	P.4
4	老人短期入所施設清涼苑	P.15
5	双葉ヶ丘デイサービスセンター	P.26
6	給食係	P.35
7	双葉ヶ丘地域包括支援センター	P.39
9	寶樹苑いずみ	P.40
10	“日だまりの家”いずみデイサービスセンター	P.52
11	双葉ヶ丘居宅介護支援センター・ “日だまりの家”いずみ居宅介護支援センター	P.59
12	法人本部事務局(総務・業務)	P.66
13	法人本部(事業推進・地域支援室)	P.69

法人全体 事業方針（総括）

★経営の健全化・安定した運営

※法人が永続してサービスを継続していくために、職員の労働環境向上、地域に還元して行くために必要不可欠な財源

- 設定の稼働率の達成
- リスク（事故防止・感染対策・自然災害等）の未然防止、迅速な対応

★地域・社会との関わりを重視したケア（個別ケア）・運営

- 地域、社会との接点を大切にする
 - 地域の一員、社会の一員として日常生活
 - 施設内だけで完結しない生活、人間関係
 - 地域で生活しつづける支援
- ※地域支援、貢献していく上で、施設が地域にオープンになり、地域に溶け込んで行くこと、また施設利用者も地域との接点をもつことが大切。

★職員一人一人の生産性向上

人口減少・労働力減少していく時代において、サービスの質・ケアの質を下げずに（むしろ上げていく）生産性をあげていく必要がある。

- 職員一人一人のスキルアップ（レベルの底上げ）、専門性向上
- 職種間、施設間の連携強化
- 業務の効率化
- ICT、ロボット活用等の検討

★各部署間の職員の交流・連携

- 同一事業形態間、同一職種間、拠点間、他部署間の相互の職員の交流（研修・情報交換等）を通して法人内の信頼関係・協力体制をより強く構築していくとともに、ケア面・サービス面で切磋琢磨していき、相互のレベルアップを図る。

★経営の健全化・安定した運営

○2020年度は丸々1年間、コロナウイルスを意識しなければならない状況にあり、経営的にも制約の多い1年でありました。そういった逆境ではありましたが、各部署、感染のリスクを下げるため努力を重ね、サービスを継続していくことで、結果として2020年度の大きな目標であった赤字解消を達成できました。これは、ひとえに職員全体の頑張りであり、これまでの2年間の赤字を教訓に危機感を持ち、感染症をはじめとするリスクを未然に防止する対応を日々実践してくれたお陰であり、感謝する所であります。

2021年度においてもコロナウイルスの脅威をはじめ、様々なリスクがあるのは変わりはないので、引き続き、しっかりとした対応を継続し、法人・施設の運営に当たって参ります。

★地域・社会との関わりを重視したケア（個別ケア）・運営

○コロナ禍の中の施設においては、外部との接触を極力避けていくことが求められおり、掲げた目標とは真逆の対応を行っていかねばならないことは、誠に残念なことであります。

ただ、その中でも、地域包括支援センターや、地域支援室において知恵を出し合い、私たちのやれる範囲で様々な取り組みがなされたことは1つの成果と言えます。

今後も感染症のリスクを想定しながらこの地域で、私たちができることを実践して参ります。

★職員一人一人の生産性向上

○コロナの影響により、職員が外部に行って研修を受けてくる、また、施設内部で職員が集まって研修を行うといったことはほとんどできなかった1年間でありました。ただその代替策としてインターネットを活用した研修等、各部署の担当者が工夫を凝らし、研修の場を設けており、新たな研修の有り方を見出していったことは成果であったと言えます。また、コロナ感染防止対策等、日々の業務がより緊張感のある状況になっておりますが、その分、各職員の危機意識の向上、感染予防対策の徹底等、スキルの向上が図られた

一面もあると思っております。

- ICT、ロボット活用の検討に関しては、会議の実施もできない状況もあり、進めることができませんでした。ICT、ロボットの活用は職員の負担軽減への有効な手段でもあるので、今後も検討を進めていきたいと思っております。ただ、効果以上に高額の場合や、導入してもうまく活用されていないケース（他施設）もあるので、当法人・施設で活用できるものであるかどうか見極めながら検討を進めて参ります。

★各部署間の職員の交流・連携

- この件に関しても、コロナの影響により施設を横断しての交流・研修等を行うことができませんでした。

しかしながら、法人内のWi-Fi環境の整備、PC及び周辺機器の購入を進めることにより、後半から拠点間の会議や打ち合わせがオンラインで実施できるようになっております。その結果、当初の目的であった職員の交流、協力体制、情報交換等がなされるようになってきており、大きな成果であります。

また、移動を伴わないことでの業務の効率化も図られており、メリットは大きいものだと感じております。

今後は、このメリットを活かし、ITもうまく活用しながら、職員間の信頼関係の構築や協力体制の強化を図って参ります。

2020年度 特別養護老人ホーム 寶樹苑 事業報告

I 基本方針・重点目標

基本方針

A：80%以上（大方）達成している B：50～80%未満（半分以上）程度達成している
C：50%未満の達成状況

基本方針	達成度	コメント
「今やろう！」皆のために。 「できるようにすること」を考えよう！これからのために。	B	前期同様。地域貢献や ICT 化、入所を進めるうえでの課題等、「これからのために」「できるようにするために」決定していかなければならないことはある。後期も新型コロナ禍が続く中、「やれないこと」「できなくなったこと」と向き合い、考え、検討し、実行したこともあったが、次年度についても継続していくこととなる。

重点目標

A：80%以上（大方）達成している B：50～80%未満（半分以上）程度達成している
C：50%未満の達成状況

重点目標	達成度	コメント
1. 年間目標稼働率 97%	A	年間平均稼働率：97.7% 後期の平均稼働率は約 96.3%であった。 入所進捗状況について、寶樹苑内多職種間（相談室、介護、看護、給食）、清涼苑、寶樹苑いずみと情報共有しながら取り組みを行っている。継続して受け入れ体制を維持、待機者確保、空床が出てから入居までの期間を短くできるよう努め、取り組むが、介護の人員不足から相談室の業務が停滞することもあった。また、実態調査対象者の都合により診断書作成に時間が掛かる、体調の変化があり想定よりも時間が掛かる等もあり、如何にイレギュラーに対応できるような件数を獲得できているか等、高稼働率を維持にあたり今後の課題も見えた。
2. リスク（事故防止・感染対策）の未然防止、迅速な対応。	B	職員 1 名の陽性が発生したが、新型コロナ禍が続いている中での対策により、感染拡大もなく終える事が出来ている。他の感染症もなく全体

		<p>的にご利用者の体調も安定していたと思われるが、対策中において骨折に繋がる事故もが起きている為、無理のない体制、対応策を検討し今後活かす事としている。</p>
<p>3. 地域との接点を探る。機会をつかむ。</p>	<p>B</p>	<p>北仙地区ふくし事業所連絡会「ふわっと」に1名参加。双葉ヶ丘地域包括、青葉社協、生活支援事業所、障害者支援事業所、サービス付高齢者住宅、特養2ヶ所等の担当者が出席し、地域でのweb会議参加。3月に小学生の下校に時間に合わせた地域のゴミ拾い活動へ参加。企画、検討、実施に関わっている。</p>
<p>4. ICT化、ロボット導入を検討。職員の負担軽減、生産性向上、業務効率化の為の試み。ご利用者の生活の質を維持、向上する為の取り組み。</p>	<p>C</p>	<p>前期同様。研修、委員会招集等は見合わせ。現状、すでに導入しているタブレットの活用に留まる。今後も状況をみながらの取り組みとなる。</p>
<p>5. 忌憚のない意見交換を続ける。ともに着地点を見つけ、目指すことで、同一職種・多職種間の連携を進化させていく。</p>	<p>B</p>	<p>一人一人が自ら発信する事、一人一人が聴く事、一人一人が相手を受容する事で、忌憚なく意見交出来る環境に近づいていると思われる。今後も終わる事なく継続していく。</p>

II 職種別の実践目標

【介護員】1階

A : 80%以上（大方）達成している B : 50～80%未満（半分以上）程度達成している

C : 50%未満の達成状況

年間重点目標	達成度	コメント
年間目標稼働率 97%を達成できるように、職員の意識付けを継続して行う。	B	<p>ご利用者の様子を把握する為、タブレットを活用し、記録を充実している。体調の把握と、体調の変化に合わせたケア検討について、同一職種、他職種（看護師や栄養士、相談員、ケアマネ）と連携する事が出来た。</p> <p>上半期には退所者が出た際、新規入所者受け入れをスムーズに行えるよう、相談員と連携し、態勢を整える事ができ稼働率を安定させることが出来た。</p> <p>下半期には新型コロナウイルス感染症の影響もあり、看取りケアご利用者の死去や他施設へ移るための退所があったが、稼働率を目標値まで安定させることが出来なかった。</p>
ご利用者の事故防止、感染症予防のための職員の知識向上と具体的な取り組みを行う。	B	<p>新型コロナウイルス感染症の職員行動指針をフロア職員に配布、周知徹底している。12月に職員1名が感染しているが、日頃の感染予防対策徹底により、ご利用者、職員への感染拡大を防ぐことが出来ている。</p> <p>誤嚥性肺炎などの感染症の勉強会をユニット会議内で実施し、知識の向上を行い、ケアに活かしている。</p> <p>下半期には骨折事故3件が発生している。コロナの影響で、フロア介護職員の人員が不足している中で、防ぐことが困難であった事故もあった。ユニット会議にて、事故報告の検討を行い、必要なケアや環境整備について話し合う機会を作っている。</p>
職員のスキルアップを目的とする研修への参加の機会を充実する。	A	<p>上半期には喀痰吸引研修へ職員を参加させることが出来た。また、看護師の協力を得て、実地研修も終える事が出来ている。</p> <p>他の外部研修は新型コロナウイルス感染症の影響で行なえず。</p> <p>ユニット会議内で、職員企画の勉強会を多数実施する事が出来ている。</p> <p>施設内研修については、レポート提出を行なえている。</p>
正職員、入職者をはじめ、介護パートや障害者雇用の能力を生かすための指導体制の強化を図る。	A	<p>新任職員1名に対し2名の職員が指導を担当している。（指導部門の職員1名と各ユニットリーダー）</p> <p>個別面談を実施するなど、不安なく勤務できるように課題解決を行ない順調に指導を行えている。</p>

	<p>障害者雇用職員は機能訓練士としての役割を担う為に業務調整を行い、デイサービスの協力で指導を受け、フロア利用者の日々のケア（歩行訓練や立ち上がり訓練、マッサージ等）を行えている。</p> <p>介護パート職員には、体力や能力に合わせて業務内容を変更し調整している。そのために介護業務の指導を行い、フロアの利用者のケアを行えている。</p>
--	---

【ユニット毎の実践目標】

ユニット名	年間重点目標	達成度	コメント
そよかぜ	<p>チームケアの強化として、職員個々のスキル（ヒューマン&テクニカル）を活用し、チームの連携強化を図る。会議内における Good&New の導入、個々の得意・不得意分野を把握した上での強会の実施などにより、チーム全体でのスキルアップおよびフォローアップ体制を確立。PDCA サイクルを元としたケアの立案・実践へと反映していく。</p>	A	<p>職員個々の得意、不得意分野に分けて、勉強会の実施や利用者個々に適したケアの見直しを行うことができた。PDCA サイクルをもとケアを見直しコスト削減に繋げることができた。Good&New 導入によりユニット内でのコミュニケーションの活性化を図ることが出来たが、定着にまでは至らなかった為、今後も継続していきたい。</p>
	<p>個別ケアの強化として、生活歴シート・ひもときシートなどのツールの活用、ICT化に伴う記録の充実、職員間・他職種との情報共有・意見交換の綿密化などを行った上で、ケアの立案、実践をしていく。尚、認知症ケア、看取りケア、リスクマネジメントの強化もここに含める。</p>	B	<p>生活歴から本人の好みの物を考え、職員間で情報を共有することができた。それをもとに今後の看取りケアに活かす工夫をすることが出来た。</p> <p>毎月のユニット会議内で前月の事故報告について、再検討し、改善策を見直していたが骨折事故が相次いでしまった。今後もリスクマネジメント強化に努め、今後また同じことを繰り返さない様に対応していきたい</p> <p>ICT化により記録に写真を添付や日常の些細なやり取り等の記録を行うことが出来た。</p>
こもれび	<p>職員一人一人の知識向上を図る。広い視</p>	A	<p>コロナ禍で感染症予防への意識もより高めながら利用者の状態観察を行いながら他職種と連携し状</p>

	野を持ち様々な角度からケアの検討・実践をし、対応の幅を広げるために取り組む。		態変化に伴うケア変更・想定できるリスク等を家族へ情報共有し日々のケアに努めることが出来た。
	「チームケア」を意識する。お互いを思いやりながら行動し、働きやすい環境を目指す。	A	お互いに声を掛け合いながらその都度ケアや業務で変更できる部分を検討しすぐに行動に移しながら日々業務に努めチームケアを意識しながら動くことが出来ていた。
	ご利用者の身だしなみ、生活環境整備に努める。居心地よく安心した生活を送れるように支援する。	B	衣類等の汚れに関しては意識しながら交換を行うことが継続的に実施出来ていたが汚さない為にどうすればいいのかという根本的な原因の改善までは至る事が出来ず。
	ご利用者が楽しみを持ちながら生活出来るように余暇活動の充実を図る。	B	感染症予防の為、レクリエーションの機会が多く設けることが出来なかったがホーム喫茶や苑内散歩や等で外の景色を眺めたりと季節を感じてもらいながら気分転換を図れるように努めたり、タブレットを活用した余暇活動を実施。

【介護員】2階

A : 80%以上 (大方) 達成している B : 50~80%未満 (半分以上) 程度達成している

C : 50%未満の達成状況

年間重点目標	達成度	コメント
各職員がケアに対する課題を見つけ、解決するスキルを身に着ける。自ら考え、実行し、ご利用者の生活の質の向上につながるケアを提供する。	B	一人ひとりが課題を解決しようとする積極性が目立つようになった。しかし、解決に至るまでの知識や実践力には差があり今後も継続して考え、実行する力を養っていく。
ICT 導入によるケア記録の充実。記録を充実させる事でより良いケアが出来るように反映させ、情報の共有を図る。	B	記録をこまめに残していく習慣は実施できている。今後は内容の充実も図っていく。
ストレスコントロールを行う。目標を共有し、前向きに努力する事と職員間の連携強化を図り、働きやすい職場環境を目指す。	B	職員間の目標の共有や協力体制は取れていた。コロナ禍においてストレス緩和等は難しい状況であった。
年間稼働率 97%の達成。 ご利用者が安定した生活を送る事で稼働率を維持することができるよう、他職種との連携を大切に、多角的な視点でケアを考える。	A	他職種と協力しながらケアを実施し安定した稼働が行えた。

【ユニット毎の実践目標】

ユニット名	年間重点目標	達成度	コメント
やすらぎ	勉強会を通して職員の専門性の向上を図る。職員一人一人が自発性を持ち、利用者の状態に合わせたケアを提供することが出来る。	B	ユニット会議内にて勉強会を実施している（脱水、接遇、アンガーマネジメント等）。その都度必要な知識についてテーマを決め勉強会を実施し知識と技術の研鑽を行っている。後期は感染症対策のため、ユニット会議の縮小もあり勉強会がほとんど実施出来ず。自発性を高めるツールとして問題解決シートを作成し配布している。
	ケアと生活の質を向上させる。まずは水分摂取の機会を増やすことに力を入れる。	B	脱水のリスクの高い夏季に向けて、5月から水分摂取量の向上を目指しイオンサポートゼリーを採用し、1日2回（10時、14時）に提供している。早期から取り組んだこともあり、夏季にはユニット職員間で水分補給への意識も高まり、脱水等で大きく体調を崩すご利用者も現れず安定した生活に繋がっている。
ぬくもり	正職・パート・派遣等、どの職員が対応しても統一したケアに繋がるよう、また、ケアの質向上の為、実施事項表を作成。QOL向上へと繋げていく。	A	上期同様に各利用者の「基本的対応」の抜け防止や統一したケアへと繋げることが出来ている。また、看護師とも実施事項表を共有することにより、現状その利用者に合った対応なのかの話し合いをスムーズに進めることができ、ケアの質向上へと繋げることができたと感じる。上期の課題であった「漠然と実施事項表のみすれば良い」と思われる場面は改善されており、担当利用者以外でも意見を出し合う様子が見られ、その意見を検討・実施・評価へと繋がられている。
	各利用者に生活安定の為にユニット会議内で勉強会を実施。より安心して快適に過ごしてもらい、安定した稼働率へと反映させていく。	B	コロナ禍の影響もあり、ユニット会議自体が開催できず、勉強会は実施出来ていない。フロアの内部研修や、個々の自己研鑽に努めることによって知識を共有しユニットへと還元している。

【看護師】

A：80%以上（大方）達成している B：50～80%未満（半分以上）程度達成している

C：50%未満の達成状況

年間重点目標	達成度	コメント
1. ケアプランに基づいた看護の提供。 ・ご利用者の意思を尊重した日常生活が送れるように援助する。 ・ご利用者の意思と身体機能に	B	コロナ禍で十分に利用者の意思を尊重した日常が遅れなかったように感じられる。感染症を防ぎながら、日常生活が豊かに遅れるよう今後、支援していきたい。

適した安楽な体位を維持することで、廃用症候群を予防し、ADL 維持に努める。		
2. 介護事故防止・感染症対策 ・個々のリスク情報やアセスメントから骨折や誤嚥・褥瘡の予防対策を実施、指導する。 ・感染症対策委員会と連携して定期的に研修を実施し、予防対策と感染症発生時の拡大防止の対応の周知に努める。	B	重篤な感染症はなかったが、骨折につながる事故があったため、今後、未然に防ぐことが出来るようフロアスタッフと連携を強化していく必要がある。
3. 看取り介護の充実 ・他職種協働のもと、ご利用者やご家族の意向に添い、安らかに最期を迎えられるように支援する。	B	コロナ禍ということもあり、看取りの際に十分に家族との時間を取ってもらうことが出来ず、納得のいく看取り介護が出来なかった。今後コロナ禍の中でも充実した看取りが出来るよう支援していきたい。
4. 社会的なニーズへの対応 ・医療的ニーズの重度化、要望の多様化等に対応し、本来の施設の在り方を踏まえ、他職種の連携のもとにご利用者、ご家族に説明し、対応を行う。	A	医療的なニーズの重度化に合わせ、看護師間で情報を共有し、対応できた。また、他職種と連携をとることで要望の多様化に対応することが出来た。

【相談員・介護支援専門員】

A：80%以上（大方）達成している B：50～80%未満（半分以上）程度達成している

C：50%未満の達成状況

年間重点目標	達成度	コメント
<ul style="list-style-type: none"> 年間目標稼働率 97%の達成。 稼働率の安定化。 年間を通して高い稼働率が維持できるように、入所進捗状況を相談員間、または他職種と状況共有し、空床が出た際にはスムーズに入所が進められるよう各々の調整力を高める。	A	下期の稼働率は 96%であったが年間では 97%を達成することができた。入所進捗状況については毎週情報発信実施。情報共有は寶樹苑相談員間だけでなく、寶樹苑他職種の介護、看護、栄養士や清涼苑、寶樹苑いずみとも範囲を拡大し実施した。その結果連携により入所を進めやすくなったと感じる。一方でコロナ禍による人員不足から入所を進められなくなることもあった。入所がすぐできる状態の待機者確保が課題。
<ul style="list-style-type: none"> 施設の窓口としての役割を意識し、施設見学等の外部から来客者には丁寧で分かりやすい説明を行い、ご家族との相談事項や状況報告では誠実な態度で信頼関係を築く。 	A	コロナ禍であり、外部とのやりとりに関しては電話対応が主であった。施設見学ができない為、丁寧にわかりやすく説明するように心がけた。ご家族への連絡に関しても状況に応じた声のトーンや話し方、話題などを調整し信頼関係構築に努めた。
<ul style="list-style-type: none"> 利用者・家族と日頃からコミュニケーションを取り、思 	B	コロナ禍でご家族がカンファレンスに参加できない状況であるため、丁寧に日頃の様子についてお伝えし情

<p>いを把握する。ケアについて利用者・家族・多職種間で検討し、利用者が望むケアプランの作成に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PDCA サイクルを意識し多職種連携のもとケア提供する。 		<p>報共有に努めた。また面会時には行事やレクリエーション参加時の写真を交えて普段の生活を伝え、ご家族の意向がケアに繋がっていることを確認して頂いた。今後の課題としてはどの職員もケアプランをしっかりと反映でき、個別化を図っていくことである。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・看取りケアプランの個別化。 ・看取り状態が長期的に続いている方のプランの見直しを随時行なう。 ・人生の最期の時間を私たちに託した利用者や家族の気持ちを大切にす。家族を含め、多職種が一つのチームとなり誠実なケアを提供する。 	A	<p>3 ヶ月に 1 回、看取りケアプランを見直すことで、その時の状態にあったケアプランを作成することが出来ている。コロナ禍で以前のような面会は出来ない状況であるが苑全体で徹底した感染予防対策を実施し、最期の時間をご家族とご利用者が過ごせる環境を提供することが出来た。今後も精神的なケアを中心とした対応を行い、その方らしい最期の時間を迎えられるよう支援していく。</p>

年間行事計画

月	計 画	実施	月	計 画	実施
4月	外出・ホーム喫茶（お花見）	△	10月	家族懇談会 衣料品販売 外出・ホーム喫茶（体育・運動会）	△
5月	外出・ホーム喫茶（端午の節句・母の日） 衣料品販売	△	11月	外出・ホーム喫茶（文化・芋煮）	△
6月	外出・ホーム喫茶（梅雨・父の日）	○	12月	外出・ホーム喫茶（クリスマス・忘年会）	△
7月	夏祭り 外出	△	1月	季節のお食事 ホーム喫茶（新年会）	△
8月	お盆供養 外出・ホーム喫茶（真夏）	△	2月	ホーム喫茶（節分・バレンタイン）	△
9月	敬老式典 外出	△	3月	ホーム喫茶（ひな祭り）	△

年間内部研修計画

月	計 画	実施	月	計 画	実施
4月	法人事業方針・経営理念等に関して	○	10月	感染症予防・対策 急変時の対応 ※清涼苑合同	○
5月	介護保険制度・介護記録に関して	○	11月	看取りケア	○
6月	感染予防（食中毒）	○	12月		
7月	人材育成（接遇）	○	1月	認知症ケア	○
8月	介護事故防止・権利擁護①	○	2月	介護事故防止・権利擁護②	○
9月			3月		

寶樹苑

①稼働率(%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平成29年度	92.7	92.3	90.5	91.7	92.2	92	92.4	92.8	91.7	91.2	91.6	93.3	92.02
平成30年度	92.9	88.4	91.6	92.6	95.4	95.7	96.1	97.5	97.6	94.3	91.4	89.7	93.60
2019年度	88.9	91.4	94.2	96.2	94.7	95.8	98.9	99.1	99	99.4	98.8	99.1	96.29
2020年度	98.3	98.1	100	99.2	99.1	99.7	98.4	96.8	96.5	95.2	96.1	95	97.70

②寶樹苑入居者状況(2021年3月31日現在)

	男	女
	人数	人数
入所者計	25	70
65歳未満	0	1
65~69	2	1
70~74	2	1
75~79	2	6
80~84	8	9
85~89	7	19
90歳以上	4	33
平均年齢	82.6歳	87.9歳

要介護度別

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計	平均介護度
2020年度	3	7	35	32	18	95	3.6

認知症Ⅱa以上の利用者 男:22名 女:68名 合計90名

平均入所期間(ヶ月)

男	女	平均入所期間
36.4ヶ月	45.9ヶ月	43.4ヶ月

全体平均 86.5歳

最高齢 101歳

③経管栄養利用者人数推移 (毎月末現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	述べ
30年度	3	2	2	2	2	2	2	2	2	1	2	2	24
2019年度	2	2	2	1	1	1	2	2	2	2	2	3	22
2020年度	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24

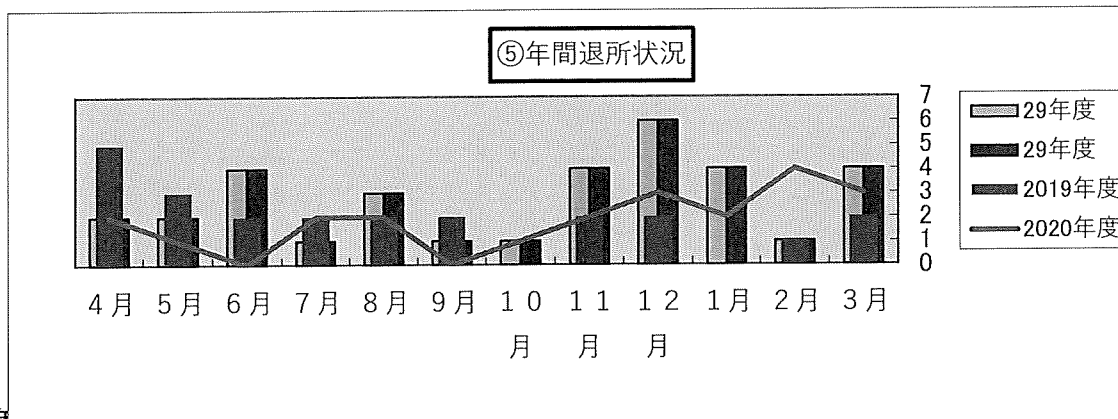
(名)

④2020年度寶樹苑入所状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
医療機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会福祉系施設	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	3
介護老人保健施設	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	3
GH・お泊りデイ等	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
清涼苑	1	1	1	0	0	1	0	1	1	2	2	1	11
家庭	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	2	1	1	2	1	1	1	1	2	3	2	18

⑤寶樹苑年間退所状況(平成29年度・30年度・2019年度比)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
29年度	2	2	4	1	3	1	1	4	6	4	1	4	33
30年度	2	2	0	3	0	4	1	1	4	1	5	3	26
2019年度	5	3	2	2	2	2	0	2	2	0	1	2	23
2020年度	2	1	0	2	2	0	1	2	3	2	4	3	22

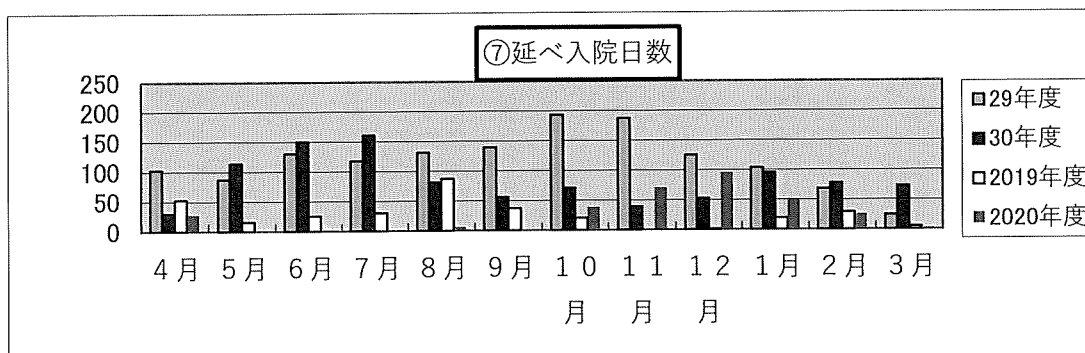


⑥2020年

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
死去	2	1	0	2	2	0	1	2	3	1	4	2	20
(内看取り)	2	1	0	1	1	0	1	1	1	1	2	2	13
入院のため	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2

⑦寶樹苑延べ入院日数(平成29年度・30年度・2019年度比較)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
29年度	103	87	130	118	131	139	193	187	125	104	68	24	1,409
30年度	30	114	150	161	81	56	71	39	53	96	78	73	1,002
2019年度	53	15	25	30	87	37	20	0	1	19	29	5	321
2020年度	27	0	0	0	6	0	38	70	95	51	25	2	314

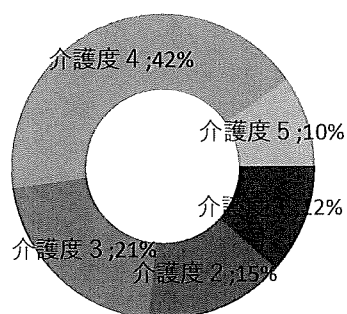


⑧寶樹苑介護度別待機者数

要支援	介護度1	介護度2	介護度3	介護度4	介護度5	合計
0	11	14	20	40	9	94
0.0%	11.7%	14.9%	21.3%	42.6%	9.6%	100%
経管栄養待機者	0名	0名	0名	0名	0名	0名(%)

※待機者は94名。要介護1、要介護2が25名。その他、実態調査の連絡対応済みが28名をしても辞退や他施設を選択する方もおり、実人数は約60名程度となっている。

⑨介護度別待機者数



I 基本方針・重点目標

基本方針

A：80%以上（大方）達成している B：50～80%未満（半分以上）程度達成している C：50%未満の達成状況

基本方針	達成度	コメント
～心に寄り添ったケアをします～ お客様満足度を得られるよう、質の高いサービスを提供します。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人の思いを確認しながら対応を検討している。一人一人の満足度を上げられるよう、職員間でケース検討を行い、個別ケアへと繋がられている。しかし、対応にばらつきが出てしまうと不満に繋がってしまう為、引き続き統一したケアを提供出来るよう対応していく。 ・困難事例について清涼苑で対応できる最大のサービスを検討し、臨機応変に対応することが出来た。

重点目標

A：80%以上（大方）達成している B：50～80%未満（半分以上）程度達成している C：50%未満の達成状況

重点目標	達成度	コメント
1. 稼働の安定化、82.5%を目指します。	B	<p>体調不良等で緊急退苑されたり、コロナウイルスの影響で一時受け入れを中止する場面もあった。しかし、コロナ渦においては安定した稼働を保つことが出来ていた。</p>
2. 個別ケアの充実を図り、その方に必要なケアを行います。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニット会議にて、個別検討をすることでその方に合ったケアの提供に努めている。必要に応じて実施事項に追加することで統一した対応を行うことが出来ている。今後も職員主体ではなく、ご利用者の思いをくみ取りながらケアに反映させていきたい。 ・ケア部門より個別のADL表の更新をこまめに行い、より本人に合ったケアを提供することが出来ていた。
3. 介護事故防止、虐待防止、感染症防止に取り組みます。	C	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症防止については、コロナウイルスの影響もあり、例年よりも職員一人一人が意識しながら消毒等感染防止対策を実施できた。 ・虐待防止については、資料を配布し各自それぞれが日々の対応を振り返りを実施。不適切ケアの研修、アンケートを実施している。 ・事故防止については、薬関連や骨折事故が続けて発生している為、引き続き再発防止策を検討。同様の事故、ヒヤリハットが挙がっていたため、今後も職員一人ひとりの意識向上が必要。
4. 積極的に緊急時の受け入れをします。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族の体調不良や入院等で緊急の受け入れを行っている。 ・新規利用者の場合は、職員間で細かな申し送りや、事前の情報を周知することで対応することが出来た。

5. 固定観念にとらわれず、臨機応変に対応出来る体制をつくります	A	<ul style="list-style-type: none"> ・急な欠勤やシフト変更等、その日出勤している職員で調整し協力しながら臨機応変に対応することができた ・深夜勤の休憩時間を確保する等、シフトの再検討を実施。それに伴う業務の負担、時間の効率化についても検討し実行することが出来た。
----------------------------------	---	--

II 職種別の実践目標

【相談員】

A : 80%以上 (大方) 達成している B : 50~80%未満 (半分以上) 程度達成している C : 50%未満の達成状況

年間重点目標	達成度	コメント
相談を受ける窓口として、信頼関係を構築しご利用者の確保につなげる。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・上半期の積極的な周知や受け入れが定着し、積極的な営業を実施せずとも、利用の相談を定期的にいただけるようになり、稼働につながることができた ・居宅、包括ほか、病院相談員からの相談も増えている固定観念に捉われず、ニーズにリサーチについては今後も引き続き行っていく。
的確な情報の収集、伝達方法の工夫および実施	B	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間、多職種間との漏れの内容申し送りを意識して行った。(ノートやネットの活用など) 漏れのない情報の伝達については、まだまだ課題がある。
説明には責任を持つ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や事業所間など、相手にあった量や言葉を意識して説明を実施した。 ・感染症対策にため非対面式の調査が増えている。感染対策を講じながら短時間で正確な情報収集、伝達について、今後検討が必要

【看護師】

A : 80%以上 (大方) 達成している B : 50~80%未満 (半分以上) 程度達成している C : 50%未満の達成状況

年間重点目標	達成度	コメント
1 緊急時対応の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者の在宅での生活状況・身体状況を的確に把握し、各職種が周知し異常の早期発見に努め迅速な対応がとれるようにする。 ・緊急時のマニュアルを整備し定期的な研修を行い職員が適切な対応をとれるように周知する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師の清涼苑に滞在する時間を多くとることで、利用者の把握に努めることができ、結果迅速な判断につながったと思われる。緊急時のマニュアルに関しては現場介護員と相談しながら整備していくこととする。
2 介護事故予防・感染症対策の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者のリスクを把握し安全に生活できるよう、誤薬・転倒などの事故を未然に防げるように努める。 ・感染症対策委員会と連携して研 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の拡大等はなかったが、期間を通して事故が相次いでみられた。介護現場と連携を密にして事故を限りなくゼロに近づけるよう努める。

修会を実施し、予防対策と感染症発生時の拡大防止の対応を周知する。		
3 社会ニーズへの対応 ・介護度、医療ニーズ、要望が多様化している中で、看護師が不在時にも対応出来るケアの提供を介護員・相談員と連携し深めていく。	A	・社会的なニーズに合わせて、出来る限りの対応をとることが出来た。今後も実調等に同行するなどして、継続していきたい。
4 職種間、関連機関との連携の強化 ・施設内外における関係機関や各職種と連携を図り、情報の共有に努め共通したケアができるようにする。 ・他職種の医療面における相談に応じ、最新の医療情報を提供する。	A	・清涼苑に滞在する時間を増やし、介護員や相談員と連携を強めることが出来た。今後も継続していきたい。

【介護員】

A : 80%以上 (大方) 達成している B : 50~80%未満 (半分以上) 程度達成している C : 50%未満の達成状況

年間重点目標	達成度	コメント
○ショートステイの役割と理解を深め、ケアに反映する ・サービス担当者会議に出席し、他職種、他サービスと情報共有し様々な視点から、その方にあったケアの検討を行う。 ・入退苑時の情報収集や普段の関わりから、ケース検討を実施し、お客様(利用者、その家族)の気持ちに寄り添ったケアを提供する。	B	・コロナ禍ということもあり、サービス担当者会議には出席できなかったが、相談員を通してケアマネージャーに他サービス利用時の様子や自宅での様子を聞き取りしたり、利用者との関りや入退苑時の情報収集によって、その方に合わせたケアを提供することが出来ていた。業務・利用者ノートやアクションシートの活用をしたことで、相談員からの情報の申し送りに漏れがなく、タイムリーな対応をできていた。 ・入退苑時の情報や普段の関わりで得た情報は、その都度すぐ対応を申し送りしたり実施事項に取り入れることで、状況に応じた対応ができていた。 ・以前と比較し、利用者家族と現場職員間でのやりとりがこまめに行われている。不足物のお知らせ(ロング利用者)、対応に困った際に家族へ相談し一緒に考えてもらう等、連絡することで、より良いサービスに繋がった。 ・日常業務の中で多職種と情報共有を行っている。自宅での利用者の様子も広く情報収集し、職員間で共有することで、お客様(利用者、そのご家族)に寄り添った個別ケアの実施に繋げることができている。
○職員のスキルアップ ・外部研修への積極的な参加や内部研修担当を行うことで知識、技術を習得し、他職員へ周知する。 ・学んだことは、確実に業務に	B	・コロナウイルスの影響もあり、研修等積極的に行えない状況であったが、デスクネット上にて勉強会の資料を配布し知識向上に努めているが、以前と比較すると新しい技術や知識を身に付ける機会は少なかった。 ・限られた職員数の中、入浴は14:00からではなく13:30~開始したり、日曜日にも入浴を実施することで、それに合わせた業務や休憩時間に変更

<p>いかす</p> <ul style="list-style-type: none"> 限られた人数の中で、臨機応変に対応できるよう、部門単位やユニット単位で話し合い、業務の効率化を図る。 		<p>するよう分担表での指示を出し、その日の状況によってはさらに早く入浴対応に入ることが出来るよう協力し合いながら対応出来ていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 限られた人数の中で業務を遂行している為、職員1名でも欠けると早番やD番が業務職員がおらず、出勤職員でカバーし対応している。リーダーや主任職員がいない日には周りの職員と話し合い、今できる最善の策を考え実行できる体制ができている
<p>○稼働率82.5%を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 感染症時期の利用者の体調面での管理、感染症対策の徹底を行う。 1、2階フロアのユニット化することで、個別ケアの充実を図る。 昨年度取り組んだ「にやりほっと」を活用。利用者のできることや嗜好、行動傾向を情報共有するためのツールとし、ケアに反映させる。 小さなことでも職員間で情報共有し、対応することで「特別感」を持って頂けるよう、各職員が個別の関わりを意識して取り組む。 対応にばらつきが出ないよう、ケアの統一化を図る。 レクリエーションの充実化を図り、楽しみを持って清涼苑を利用して頂く。「また来たい」と思ってもらえるように、定期・新規利用者のリピーターを増やす活動を企画し、実施する。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> 体調不良や風邪症状がある方に対してすぐに発見できるようなスキルが職員全体で上がってきている。熱や咳などの症状が見られた際にはすぐに居室移動やガウンテクニック等を行い感染症防止対策を行った。体調観察をいち早く行うことですぐに通院依頼や様子観察を行い本人の体調不良を最短でみつけ対応することができていた。 ユニット化にともない、個別対応が充実した反面、別ユニットの利用者対応については把握しきれない面があり、個別対応にもばらつきを感じることもあり、改善の必要性を感じた。 利用者との関りや行動の観察を通して、その方に必要な対応、改善すべき部分を取り上げて話し合うことで情報を共有するとともにケアに反映することが出来ていたように思う。利用者との関りや会議の中で得た利用者の思いや要望をくみ取り対応したことで「特別感」へ繋がられた。 申し送りノートやアクションシートを用い、対応の統一を図っている。しかし、まだ対応にばらつきがみられることがあり、今後も課題である。 「にやりほっと」を日常的に活用することで、利用者 のネガティブな面だけでなく、ポジティブな面に視点 を向けたケアを行うことができた。「気になるシ ー ト」も活用することにより、利用者へのケアに対する 疑問点を共有化し、ケアの統一化を図った。 利用者の誕生日に実施してきた誕生会は 好評を得て おり、利用者に「特別感」を感じていただくこと、「また清涼苑を利用したい」と思ってもらえることに 繋がった。 毎月のホーム喫茶は利用者に四季を感じていただける レクリエーションとなっているだけでなく、利用者・ 職員が一体となって楽しむことができています。それに より、双方の距離感を縮められただけでなく、利用者

		<p>の普段見られない新たな側面を知ることができ、日常 的な利用者対応にも良い影響を与えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的にレクリエーションを実施することが出来な かったが、空いた時間を活用し、軽体操や創作物 作 成を行ったりと現状で出来る限り利用者の方に楽し みを持って頂けるよう努めている。 ・制作活動は職員が中心に行ったため、感染症防止を 図りつつ利用者が中心となることができるようなレク リ エーションを企画できるよう努める必要がある。
<p>○業務の見直し、改善を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・的確に業務を遂行出来るよう、休憩時間や勤務形態等の見直しを行い、働きやすい環境を目指す。 ・必要な情報の獲得、また、伝達する方法を検討する 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アクションシート・ホワイトボード・業務利用者ノートの活用により、必要な情報の把握に努め以前に比べ申し送り漏れが減った。 ・業務や勤務形態の見直しや改善を行い、深夜勤の休憩時間確保、E 番の午後の業務負担を軽減したことで残業もほとんどなく働きやすい環境へ近づけている。しかし、土日祝日は人員不足により残業を行うことも多々ある為、随時見直しを行っていく。

【部門別】

A : 80%以上 (大方) 達成している B : 50~80%未満 (半分以上) 程度達成している C : 50%未満の達成状況

年間重点目標	達成度	コメント
食事部門	<ul style="list-style-type: none"> ○楽しみとなる食事時間の提供 ・食事レクを実施し、利用者の楽しみや、家庭の懐かしさを感じてもらえる機会を作る。 	B <ul style="list-style-type: none"> ・食レクについては感染症の件もあり、ホーム喫茶などでしかご利用者と一緒に料理を作ることはできなかった。限られた人数ではあったが、ご利用者とコミュニケーションをとりながら楽しく実施が出来た。
	<ul style="list-style-type: none"> ○利用者の状態に合った食事の提供 ・制限ある方へのケアやマニュアルの見直し、また自助具を必要とする方の食事の環境整備 	B <ul style="list-style-type: none"> ・食べこぼしの多いご利用者用に食事用のエプロンの購入し食事の際に使用している。次年度もその都度ご利用者に合った補助具や介護用品の導入を検討していきたい。 ・状態の低下に伴い、食事形態についても他職種と相談しながら変更することが出来ていた。
入浴部門	<ul style="list-style-type: none"> ○利用日数や状態に合わせた入浴日設定 ・入苑持の入浴日の設定、入浴カウント表に漏れがないか見直しを確認を行う。 	B <ul style="list-style-type: none"> ・入浴カウント表に前月末と翌月始めの欄を付け足し、月またぎ利用者の漏れが出ないように取り組んでいる。
	<ul style="list-style-type: none"> ○通院や退苑日に合わせ、入浴回数の検討 	B <ul style="list-style-type: none"> ・通院や退苑日を考慮した入浴回数、日程設定が出来ていた。しかし退苑日が早まったり延長したりした際、カウント表が直されていなかった事案があったためシステムを含め、改善する必要がある
	<ul style="list-style-type: none"> ○個別ケアの充実 ・羞恥心に配慮したケアを行う(着脱時の対応、体の隠し方等) ・同性介助への配慮。リストを作成し、更新する。 	B <ul style="list-style-type: none"> ・入浴時、羞恥心に配慮したケアが出来た。 ・拒否のある利用者に対し、上手に行く声かけなどを共有することが出来た。 ・同性介助への配慮に関しては、感染症対策からゾーニングの為使用出来る浴室が固定されてしまい、柔軟に変更することが出来ず、異性職員の対応になってしまう事もあった。
排泄部門	<ul style="list-style-type: none"> ○利用者のADL合った排泄物品の充実、個別性のある排泄介助の実施 ・ケース検討での情報収集やその方に合った排泄物品を随時検討、見直しを行う。 ・不快を与えず、気持ちよく排泄できるケアの検討、実施。 	B <ul style="list-style-type: none"> ・利用者のADLの変更に伴い、排泄物品を更新して申し送りを行っている。その都度ユニット会議や気になるシートにて本人に合った排泄形態、使用物品の検討を行っている。 ・ロング利用者の排泄物品は担当職員が考察し、変更を行うようになっている。その為、早い段階での排泄についての情報収集と物品変更の申し送りが実施できた。

	<ul style="list-style-type: none"> ○個別排泄パターンの把握、排泄表の更新 ・新規利用者や排泄物品の変更時の情報共有しやすいシステム作りを行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・日直職員で使用するアクションシート(毎日更新する申し送り内容の記入表)を活用し、排泄物品や下剤と薬についての変更・申し送りを行い対応していた。ADL表には訂正されていない事があり、日直職員以外が排泄物品の変更に気づかない事あった。今後情報の更新が課題である。
	<ul style="list-style-type: none"> ○排泄関連物品の整備、整頓 ・排泄物品の清掃と共に、管理表を作成、整備していく。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策の為に消毒物品、感染症対策物品の整理補充を行っている。 ・排泄物品は棚を整理して保管場所を新たにしているが、使用した物品が元の場所に戻されていない事多くある為、再度検討必要。
余暇部門	<ul style="list-style-type: none"> ○掲示物や創作活動を通し、季節感を感じてもらえる環境の整備 ・利用者が参加しやすい制作物等を考案し利用中の楽しみや活動時間を増やす。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・お花紙を用いてコスモスや桜等の造花作りを行っており、利用者から好評をいただいている。 ・各階デイルームの亚克力ボードにも季節の花のプリント装飾を行っており、利用者同士や、利用者と職員とのコミュニケーションの材料となった。
	<ul style="list-style-type: none"> ○利用者のADL維持のため、生活の楽しみのため体操やレクの提供、物品の整備 ・稼働増加に伴い利用者ケースも多様化していくため、個別余暇の重要性を考慮して準備する。 ・利用者の誕生会企画、実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者に合わせ、週1回程のペースで余暇担当職員で集団体操を実施することができた。 その他、希望する利用者には計算問題、塗り絵のプリントを印刷して配布。 ・日常業務の多忙により、個別余暇の準備、充足が疎かになっていたことが反省点として挙げられる。12月に余暇棚の大規模な整理を行っている。 ・誕生日を迎えた利用者喜んでいただけよう、誕生日会の企画・実施。他利用者も巻き込み、盛り上げることで、誕生日会を1つのレクリエーションとしても実施することが出来た。
入苑・退苑部門	<ul style="list-style-type: none"> ○在宅の延長線として、本人の出来る事を維持していくケアを情報収集、共有できるシステム作りを行う。 ・実施確認事項を最大限に活用し、ケアの必要性、優先順位などの見直し、検討を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・苑内で実施できる、自宅での習慣(歩行練習や、ラジオ体操)は実施事項に取り入れ、実践できた。 ・得意な事(洗濯たたみ、タオルたたみなど)や好むもの(趣味やテレビ番組など)はケア記録に残したり、ケア会議で情報を共有し、過ごしやすい環境作りにつなげることが出来た。
	<ul style="list-style-type: none"> ○入退苑業務がスムーズに行えるよう、書類や方法の見直し、検討 ・入苑時の聞き取りや私物表、退苑時連絡帳を通し、利用中の様子をわかりやすく家族へ伝えられるよう、フォーマットの検討 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・書類に関して、私物表を家族の方が簡単に記入できるよう改善している。 ・連絡帳に関しては、利用中の様子や、家族より依頼されていた事がどうなったかを明確に記し、退苑の際に伝えていた。

	<p>○私物の紛失、返却忘れをなくす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私物表記入のみならず、写真を残し、私物の情報共有を図り、漏れのないように管理の徹底する ・返却忘れや紛失物について、不信感を与えないよう説明および、対応をする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・返却忘れ、紛失を防ぐ対策として私物を写真撮影し、ケア記録に残している。名前の記入が難しい靴下などは、使用しない等対策を行ってきた。昨年より、家族との大きなトラブルはなかった。しかし、ご家族へ連絡する際、誤解を与えるような改発言や対応が数件あった。電話での対応の仕方をめて見直し改善する。
OJT 部門	<p>○育成方法の実施、検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月2回面談をし、振り替りを行うとともに次の課題を明確にする。 ・変更点があった際には随時マニュアルの見直しを行う。 ・申し送りノートを活用し、進捗状況を指導者間で把握し、スムーズな育成を目指す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・月2回の面談を目標にしていたが、シフト上予定が合わないこともあり、月1回～2ヶ月に1回の面談になってしまう事があった ・個別面談を行った際には目指すべき課題を明確にし、新人職員に合わせた指導を行うことができた。しかし担当職員1名で行っていたため、精神的な負担が大きくなるため次回以降は2名の指導担当者が交互に面談して本人の良さを引き出し、不安を取り除く、そして不得意な分野を改善できるよう導いていきたい。 ・途中から日誌に次の指導者へのコメント欄を作成し、1枚の用紙で完結できる方法を用いたが、新人や他職員の提出が遅れたことから次の指導者が前回の指導内容を確認できないまま指導に当たることがあった。(そのため、本人へどこまで指導を受けているか確認しながらの指導になった) ・申し送りノートの活用については記入漏れがあり、次の担当指導職員まで進捗状況が伝わらない事や申し送りノートを記入するのに時間を要する為、勤務後に残って記入することが多かった。記入方法も職員によってばらつきがあり、要点が分かりずらくなっていた部分も多かった為、記入する時間の見直し、記入方法を統一する必要がある。 ・デスクネットにて個別面談の内容を掲示することで進捗状況を職員間で把握することができていた。
	<p>○統一したケアが提供できるよう育成する。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・面談後の報告、指導時の様子確認、統一した介助や対応内容を新人へ伝えるためにデスクネットにて他職員へ確認するなどして対応していた。 ・介助方法については職員により、個別性がある為、全てを合わせることは難しいが、進捗状況に合わせて、指導が必要なことを明確にすることで、統一したケアに繋げることができていた。 ・指導する内容について、申し送りノートだけでは伝わりにくい部分については指導者間でメモや口頭で直接伝えるようにしたことで統一したケアに繋げている。

IV 年間行事計画

2020年度 年間行事計画

【職員会議・研修】

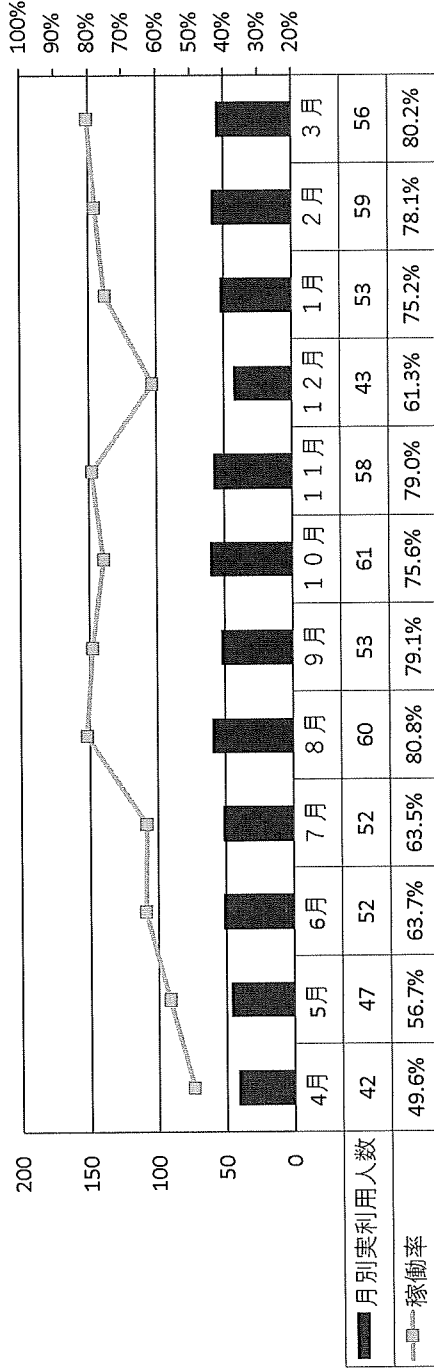
日 時	時 間	内 容	実施
4月	19:00～ 20:30	事業計画確認、目標設定	デスクネット上にて開催
5月	19:00～ 20:30	各部門事業計画発表会	デスクネット上にて開催
6月	19:00～ 20:30	食中毒予防研修(寶樹苑と合同)	
7月	19:00～ 20:30	夏休み予定(予備日)	不適切ケアの内部研修を実施
8月	19:00～ 20:30	内部研修①「緊急時対応」	○
9月	19:00～ 20:30	内部研修②「虐待・身体拘束防止」	○
10月	19:00～ 20:30	感染症勉強会(寶樹苑と合同)	
11月	19:00～ 20:30	内部研修③「事故防止」	デスクネット上にて開催
12月	19:00～ 20:30	内部研修④「認知症について」	デスクネット上にて開催
1月	19:00～ 20:30	内部研修予備日(予定どおりであれば冬休み)	
2月	19:00～ 20:30	各種マニュアル見直し、検討会	デスクネット上にて開催
3月	19:00～ 20:30	事業計画の総括(各部門の事業報告発表会)	

2020年度 稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ利用人数	595	703	764	787	1001	949	937	948	759	932	875	994	10244
月別実利用人数	42	47	52	52	60	53	61	58	43	53	59	56	636.00
新規利用者	4	4	9	2	10	2	10	3	1	4	8	5	62.00
月ベッド数(40×日数)	1200	1240	1200	1240	1240	1200	1240	1200	1240	1240	1120	1240	14600
稼働率	49.6%	56.7%	63.7%	63.5%	80.8%	79.1%	75.6%	79.0%	61.3%	75.2%	78.1%	80.2%	70.2%
一人あたりの平均利用日数	19.0	22.6	25.4	25.4	32.3	31.7	30.2	31.6	24.5	30.1	31.3	32.1	28.00

(月平均実人数) 53人
(月平均) 5人

利用人数及び稼働率

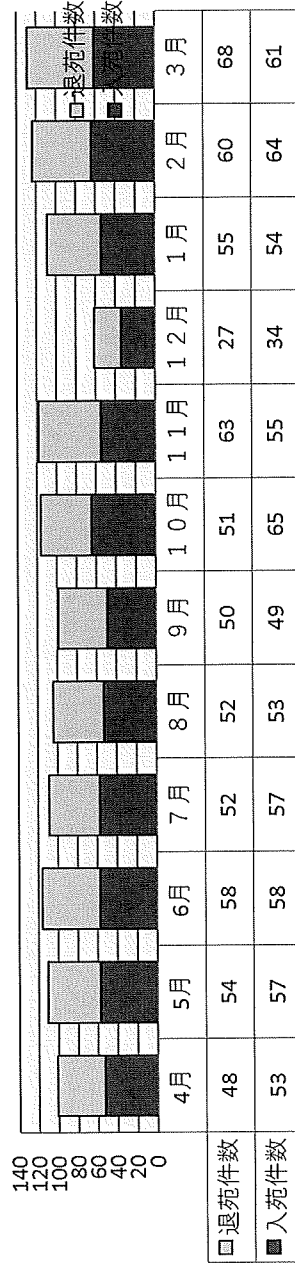


入退苑者総数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入苑件数	53	57	58	57	53	49	65	55	34	54	64	61	660
退苑件数	48	54	58	52	52	50	51	63	27	55	60	68	638
入・退苑合計	101	111	116	109	105	99	116	118	61	109	124	129	1298
一日平均件数	3.4	3.5	3.9	3.5	3.4	3.3	3.5	3.9	2.0	3.5	4.3	4.2	3.5
苑送迎件数(入退合計)	76	97	90	87	79	84	110	108	42	95	106	115	1089

平均 55人
平均 53.1人

入退苑者総数



新規相談件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談合計	11	10	11	22	19	13	21	11	11	24	23	28	204
介護負担軽減	3	3	6	5	6	4	7	6	4	8	9	12	73
介護者不在	5	3	3	5	4	3	5	4	3	7	5	8	55
施設待ち	3	2	2	8	6	6	8	1	3	8	9	8	64
虐待	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他	0	1	0	4	3	0	1	0	1	1	0	0	11

2020年度 双葉ヶ丘デイサービスセンター事業報告

I 基本方針・重点目標

基本方針

A：80%以上（大方）達成している B：50～80%未満（半分以上）程度達成している C：50%未満の達成状況

基本方針	達成度	コメント
地域で一番楽しいデイサービスを目指します！！	C	2020年度は新型コロナウイルス感染症の流行に伴って、年間計画で提示していた行事やアクティビティなどは中止もしくは大幅に内容が変更となっている。特に外出行事はほぼ中止となっており、外食や買い物、秋の遠足などを楽しみにされていた利用者からも「残念」との声があがっている。 また、三密に配慮した環境整備が求められ、飛沫防止の亚克力板の設置やマスク着用などで他者交流もはばかれる状況であった。感染予防が優先事項となり、利用者にとっての「楽しみ」となるような活動を思うように提供できなかった。

重点目標

A：80%以上（大方）達成している B：50～80%未満（半分以上）程度達成している C：50%未満の達成状況

重点目標	達成度	コメント
1. 専門性の高いアクティビティを提供することで、元気にいきいきとした生活を送ることができるよう支援します。	C	コロナ禍で外出を制限されている方も多いため、専門誌（月間デイ・レクの達人）を参考にしながら、気分転換と機能維持を意識したアクティビティの提供に努めた。ただ、感染予防対策を優先したことで「専門性の高い」「元気にいきいきとした」といった本来の目標としていた前向きな活動には達してはいない。
2. 最先端の知識を吸収することで、介護のプロフェッショナル人材を育成します。	C	新型コロナウイルス感染症の流行に伴って、外部研修への派遣は控えていたが、12月に研修会場の感染予防対策などを考慮したうえで、職員1名を研修に派遣できている。

<p>3. 地域に根差した施設を目指し、人と人とのつながりを大切にします。</p>	<p>C</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて、北仙台ボランティア・ペン習字教室（月1回）・訪問美容（月1回）などの定例の外部ボランティア及び、外部の慰問ボランティアの受け入れは感染予防のため中止としている。感染症流行により地域との関りは断たれている。</p>
<p>4. 年間目標稼働率82.0%を達成します。</p>	<p>C</p>	<p>コロナ禍ではあったが、年間で19件の新規利用者を受け入れている（2019年度新規利用者受け入れ件数は18件）。12月に併設施設にて新型コロナウイルス感染症の陽性者が発生したことで、デイサービスも営業休止（12/2～12/15）となり、稼働率の大幅な減少（35.3%）となった。年が明けて以降、市内での感染者の増加や高齢者施設でのクラスターの発生が相次いだことと、3月には緊急事態宣言の発出などもあり、一旦は体験利用及び新規利用者の受け入れを止めたが、次年度からは、体験利用の希望者には事前に体温・体調チェック表をお渡しし、体験利用の当日までに一週間の体調観察をして頂き、異常が認められなければ体験利用可能としている。 2020年度の年間稼働率は67.3%</p>

II 職種別の実践目標

【介護員】

A : 80%以上 (大方) 達成している B : 50~80%未満 (半分以上) 程度達成している C : 50%未満の達成状況

年間重点目標	達成度	コメント
<ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーションのマンネリ化を防ぐ。定期的 (年に3回程度) に新たなレクリエーションを導入する。 ・楽しさの中にも機能維持・向上、認知症予防に繋がるようなアクティビティ (お料理会などの IADL を意識した取り組みなど) を提供する。 ・外出・外食行事の充実。社会交流の機会を多く持っていただく。 ・効率よくアクティビティを提供するために、マニュアルの整備を定期的 (3ヶ月に1回程度) に行う。また、必要な物品を購入する。劣化が進んでいる備品に関しては補修したり、場合によっては廃棄を検討するなど安全面にも配慮する。 ・魅力的な活動を提供することで、ご利用者の関心を高め年間目標稼働率82.0%の達成を目指す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の流行を受けて、カラオケなどの飛沫や接触による感染リスクの高いレクリエーションは休止としている。感染予防にも考慮しつつ、機能維持や認知症予防につながるような、新たなレクリエーションを12月から5種類導入できている。また、コロナ禍ではあるものの、後期も感染予防策を講じながら季節感を得られるような活動 (紅葉ドライブ、新年会、節分・豆まきなど) も提供することが出来た。11月にはコロナ禍に対応した行事「テイクアウトランチ」を実施することができた。各飲食店から好きな食事をテイクアウトする物珍しさとメニューの種類の豊富さで、好評であった。 ・新型コロナウイルス感染症の感染予防対策として、可能な範囲で飛沫や接触を防げるよう、参加利用者の座席の間隔を可能な範囲で空ける、接触の少ないレクリエーション内容への変更等を行っている。また、使用後の物品や椅子・テーブルの消毒も実施している。物品の補修作業を適宜行っている。利用者の安全面に配慮するとともに、より良い使用感が得られるよう都度改良している。不用品 (備品は除く) は随時破棄するなどして環境整備にも努めている。 ・「楽しさ」よりも感染予防を意識した活動内容となり、「魅力的な活動」を提供できたとは言い難い。年間の稼働率も60%台と低迷している。
<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に内部研修を実施する。また、外部研修にも積極的に参加する。各研修で学んだことを活かし、常に向上心を持ちながら各職員がスキルアップを目指す。 ・職員間での支援方法にバラつきがないように、日々の報告、連絡、相談を怠らない。タイムリーに情報を共有し、統一したケアを実践する。 ・カンファレンスを通して、利用者ごとの介護計画書の内容を理解、 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に沿って、内部研修を実施することが出来ている。外部研修に関しては、12月に研修会場の感染予防対策を確認したうえで、職員1名を福祉レクリエーション研修に派遣している。 ・毎日のミーティングや定例の会議内で対象となる利用者のケアの方向性、対応方法等について確認・検討できており、タイムリーに職員間で情報共有ができています。 ・カンファレンスに参加し、介護計画書の内容について理解、把握できている。他

把握し個別のニーズに応じたサービスを提供できるよう努める。		職種の意見も参考にし、ケアに反映することができている。
<ul style="list-style-type: none"> ・フェイスブックなどで行事や日常の様子などを外部に発信することで、幅広い方々にデイサービスに興味を持っていただく。 ・ご家族が介護に関する悩み事や困りごと等を気軽に職員へ相談できる環境作りに努める。 ・北仙台ボランティアとの連携強化を図る。北仙台ボランティアが関わるサロンやサークル、団体などとも交流機会を持つ。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的にSNS（フェイスブック）を更新している。デイサービス内での活動の様子を配信し、コロナ禍で施設見学の受け入れも困難な状況から、関係者以外の方々にも幅広く双葉ヶ丘デイサービスセンターを知っていただけるよう努めている。 ・北仙台ボランティアを含めた外部ボランティアに関しては、新型コロナウイルス感染症の感染防止策として、現在受け入れを休止している。同様にデイサービス側からの外部への職員派遣なども制限されたため、サロン活動などの地域との交流機会を持つことができなかった。

【 相談員 】

A：80%以上（大方）達成している B：50～80%未満（半分以上）程度達成している C：50%未満の達成状況

年間重点目標	達成度	コメント
<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の窓口として、第一印象で安心感を持って頂けるような思いやりのある接遇を心がける。研修や勉強会などで接遇面のスキルアップを図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としての基本的マナーを遵守し、好感を持って頂けるような対応（話し方、表情など）を心がけている。 ・利用者の体調や精神状態、周辺環境の変化など、些細な事柄でも家族や担当CMに申し伝えている。速やかな対応が必要なケースに関しては、通院の依頼やサービス内容の変更などの提案も行っている。 ・接遇に関する研修には参加していない。
<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者の状況についてご家族・ケアマネジャー等と共通認識をもち、ニーズには迅速に対応できるよう情報共有を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジャーとの連携を密にするために、毎月の実績報告で利用状況報告書も添付し、担当ご利用者の詳細な状態の報告に努めている。必要な情報は適時伝えている。 ・「ふたばデイ便り」は毎月発行し、関係事業所や家族へ配布している。パンフレットも同様に配布し、双葉ヶ丘デイサービスセンターに興味を持っていただけるよう努めている。 空き状況に関しても毎月書面にてケアマネジャー宛てに送付している。 コロナ禍での新規利用者の問い合わせについては、事前に体調確認や家族周辺の状況確認を行うことで感染症を持ち込ませないよう努めている。
<ul style="list-style-type: none"> ・サービス担当者会議には可能な限り参加する。会議の内容については、議事録やミーティング等で報告し、サービス提供状況や周辺状 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の感染リスク回避のため、サービス担当者会議は書面による照会のみとなることも多かったが、サービス担当者会議が開催された際

<p>況等の情報を職員間で共有できるようにする。</p>		<p>には、ほぼ参加できている。他事業所 CM や家族との情報共有、意見交換等を丁寧に行うよう心がけている。また、サービス担当者会議で得た情報を速やかに共有できるよう、当日中に議事録を作成するよう努めている。サービス担当者会議の内容については当日のミーティング内で報告し、情報の共有を図っている。</p>
<p>・継続してご利用される方はもちろん、新たにご利用される方にも、安心してご利用して頂けるよう、制度に関する理解を深める。</p>	<p>B</p>	<p>・コロナ禍で安全な・安心にご利用して頂くために緊急事態宣言の発令、まん延防止等重点措置の発出などに合わせて新型コロナウイルス感染症に対する当事業所の取り組みや指針について、都度書面にてご家族やご利用者及び関連事業所にもお知らせしている。</p> <p>・併設施設におけるPCR検査陽性者の発生による営業停止期間中（12/2～12/15）も事前の連絡と丁寧な説明を心掛けたことで、大きな混乱もなく、12/16より問題なく営業を再開できている。</p> <p>・4月からの介護報酬改定に関する情報収集を行うとともに、改定に伴う同意書の作成を3月より行っている。</p>

【 作業療法士 】

A : 80%以上（大方）達成している B : 50～80%未満（半分以上）程度達成している C : 50%未満の達成状況

年 間 重 点 目 標	達 成 度	コ メ ン ト
<p>・機能訓練希望者へ3ヶ月毎に必要な評価を実施し、個々のニーズや状態に応じて生活機能の維持・向上を目的とした「プログラム」の作成や見直しを行い、その日の体調に合わせてメニューを実施する。機能訓練の希望があれば随時対応できるようにスケジュールを調整する。</p>	<p>B</p>	<p>・身体機能評価や体力テストを定期的を実施し、ニーズを確認した上で個別プログラムを作成、その日の体調や状態、希望等に合わせて転倒事故や怪我等なく安全に訓練を実施できた。新規で個別機能訓練を希望した方も希望通りに訓練に参加して頂いている。</p>
<p>・集団体操の内容をニーズに合わせて随時更新する。</p>	<p>B</p>	<p>・新たなアイテム体操として「輪っか体操」を考案し、職員へ指導を行っている。1月のアイテム体操として実際に運用している。</p>
<p>・ご利用者やご家族、デイサービスに来所する地域の方々に生活内で役立つ運動や転倒予防体操等の情報提供を行う。</p>	<p>B</p>	<p>・特に訓練意欲の高いご利用者については、自宅で取り組める体操のプリントを定期的に配布している。実施の有無や効果などについて訓練時に本人より聞き取りを行っている。</p>
<p>・全職員が利用者個々に合わせた適切なケアを実践できるよう、心身機能や状態に応じた情報の伝達に</p>	<p>B</p>	<p>・その日のミーティングやカンファレンス、会議、月別訓練実施状況表、リハ訪</p>

努める。利用者の状態把握に繋がる情報は職員に随時伝達する。	問報告書等を通して利用者の状態や必要な情報の伝達を行うよう努めた。
-------------------------------	-----------------------------------

【 看護師 】

A : 80%以上 (大方) 達成している B : 50~80%未満 (半分以上) 程度達成している C : 50%未満の達成状況

年間重点目標	達成度	コメント
<ul style="list-style-type: none"> ・ 異常時の早期発見に努め、ご家族や各関係機関と連携を図りながら適切な対応を行えるようにする。ご利用者の体調が安定することで、体調不良によるキャンセルを減らし年間目標稼働率82.0%の達成につなげる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ ご利用者個々の状態把握に努めている。朝の到着時のバイタル測定時に体温や血圧、脈拍数に異常が見られた際には、相談員へ申し送りを行っている。また、利用中に状態の変化や体調不良に伴う各種症状が見られた際には相談員を通じて家族や関係機関との連絡・調整を依頼している。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って、引き続きご利用者に向けて、マスク着用の徹底、手洗い・手指消毒の励行を呼びかけているが、認知症による理解力の低下で感染対策が十分でない方もおり、根気強く呼びかけを行っている。当事業所内において、新型コロナウイルス感染症の感染が疑われるような事案は発生していない。 ・ コロナ禍で自宅にこもりがちな生活が影響してか、体調を崩されて入院される方や自宅で転倒し骨折される方が一時的に増えたこともあり、登録者数が減少している。年間の稼働率も60%台と目標値に届かず。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者個別の処置内容や体調に関する情報を把握、整備し適切な看護業務が行えるようにする。職員間で利用者の健康状態について情報を共有する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 皮膚状態の観察、処置の実施については家族や担当 CM の申し送りに従って適切に行っている。看護師、機能訓練指導員として関わる中で、利用者の状態について些細な変化（誤嚥や転倒リスクなど）でも気になる点などあれば、ミーティングなどで情報共有を図っている。必要時にはご家族や担当 CM への申し送りを相談員へ依頼している。 ・ 6月は食中毒に関する研修、10月は感染症予防（インフルエンザ・ノロウイルス）研修を計画通りに実施できている。

年間業務計画

月	計 画	実施	月	計 画	実施
4月	お花見ドライブ お料理会 内部研修（介護技術） マニュアル改訂	△	10月	秋の遠足 お料理会 感染症予防研修（ノロウイルス・インフルエンザ）	△
5月	行事湯（菖蒲湯） 外出行事 内部研修（事故防止）	△	11月	文化祭 紅葉ドライブ 権利擁護研修①（プライバシー保護）	△
6月	外食行事 お料理会 レクリエーションの見直し・追加 内部研修（食中毒）	△	12月	行事湯（ゆず湯） クリスマス会 お料理会 レクリエーションの見直し・追加 認知症研修 マニュアル改訂	△
7月	夏祭り 集団体操の見直し・追加 内部研修（機能訓練） マニュアル改訂	○	1月	新年会 集団体操の見直し・追加 権利擁護研修②（倫理、法令遵守）	△
8月	BBQ&ビアガーデン 七夕外出（根白石） 内部研修（リスクマネジメント）	△	2月	節分豆まき お料理会 権利擁護研修（身体拘束廃止）	△
9月	敬老会 運動会 レクリエーションの見直し・追加 内部研修（防災関連）	△	3月	春のお茶会	△

【その他】

- 業務改善会議、デイサービス職員会議はそれぞれ月1回開催。
- 外部講師によるペン習字教室、訪問美容は月1回実施。
- 「月間チャレンジゲーム」「製作活動」は毎月実施。
- 誕生日会は随時実施。
- ※実施回数については変更の可能性あり。

【コメント】

市内での新型コロナウイルス感染症の感染拡大にともなって、感染リスクの高い外出行事や飛沫や接触による濃厚接触のリスクが高い行事に関しては、感染予防の観点から中止としている。代替の行事や内容の一部を変更するなどして感染予防を講じたうえで提供している。
内部研修は計画通りに実施できている。

双葉ヶ丘デジタルサービスセンター利用実績

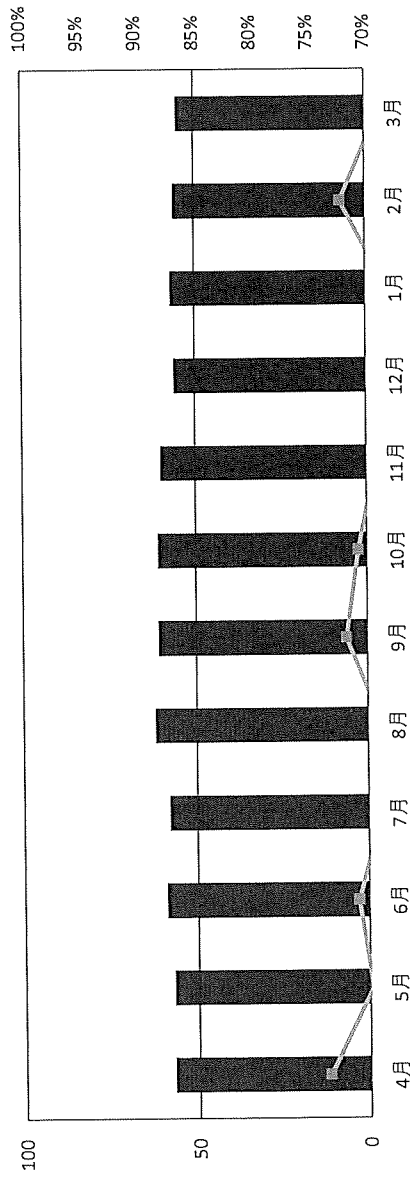
2020年度 稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
月別延べ利用人数	485	439	468	468	475	433	474	467	436	409	433	475	5217
月別実利用人数	57	57	59	58	62	61	61	60	56	57	56	55	58.25
新規利用者	1	1	0	1	1	6	2	1	3	0	2	0	19
稼働日数	22	21	22	23	21	22	22	21	21	20	20	23	258
稼働率	73.5%	69.7%	70.9%	68.8%	68.7%	71.8%	70.8%	69.2%	35.4%	68.2%	72.2%	68.8%	67.3%
平均利用者数	22.0	20.9	21.3	20.7	20.6	21.5	21.2	20.8	20.3	20.5	21.7	20.7	21.0

(月平均実人数)

(月平均)

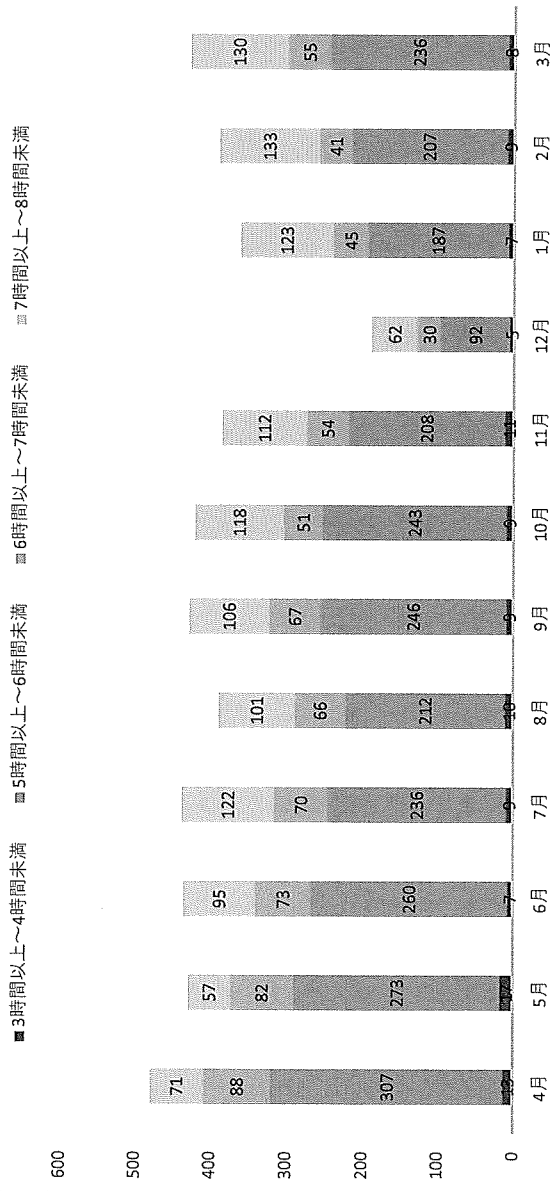
利用人数及び稼働率



サービス提供時間別利用者総数(延べ人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
3時間以上～4時間未満	13	17	7	9	10	9	9	11	5	7	9	8	114
5時間以上～6時間未満	307	273	260	236	212	246	243	208	92	187	207	236	2707
6時間以上～7時間未満	88	82	73	70	66	67	51	54	30	45	41	55	722
7時間以上～8時間未満	71	57	95	122	101	106	118	112	62	123	133	130	1230

サービス提供時間別利用者総数 (延べ人数)



2020年度 給食係 事業報告

I 基本方針・重点目標

基本方針

A : 80%以上 (大方) 達成している B : 50~80%未満 (半分以上) 程度達成している C : 50%未満の達成状況

況

基本方針	達成度	コメント
食はご利用者にとって大きな楽しみの一つです。安全で美味しい食事を提供し、ご利用者の喜びや幸せ、又、他職種連携によって栄養状態の維持・改善に繋がるよう支援致します。	B	・コロナ禍のなか、事業所毎利用者ニーズに対し安定して、迅速な対応ができた。又、彩り良い季節感や工夫が感じられる美味しい食事の提供、配食サービスへの取り組み、衛生面でも配慮のある継続が維持された。

重点目標

A : 80%以上 (大方) 達成している B : 50~80%未満 (半分以上) 程度達成している

る C : 50%未満の達成状況

重点目標	達成度	コメント
<p>1. 働きやすい職場環境を作ります</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会人としての基本的なモラル (嘘をつかない、人に親切に接する、ルールを守る、努力する) の遵守により、コミュニケーション能力の向上を目指します。 ・ 育成プログラムの通り指導中の職員は継続して研修を実施、中途採用職員についても、本人のレベルに応じた指導により定着を図ります。 ・ 職種間の業務における意識の違いを調整し、チームの連携力を向上させます。 ・ 一人がやらない事によって、 	C	<p>・ 恒久的に人材不足が続き、前期では順調に進みつつあった育成プログラムも後期では頓挫し、目標であった職員定着には結びつかなかった。そんな状況下で、年央より急遽 12/14 開始となる配食事業が提示され、プロジェクトチームが組まれた事で、短時間でよりレベルアップしたスキルや効率性、一層の連携力が求められる展開となった。一人一人がプロ意識をもち、担当職員中心に進めてはきたが、開始当初よりソフト面での困窮、事業所毎の事業に対する取り組み方への意識の相違により、協力体制とは言えない状況で、なぜ必要で、何のために行う事になったのかの真の部分が法人として周知されていないような感じを受けた。今後、スムーズな事業運営のため、両施設間の連携や、食の質の維持、予測される最悪の事態に対し、具体的な対応や準備想定を互いに検討、理解を深めながら、食事の安定化に努めたい。</p>

<p>誰かに負担がいかないよう、相手の身になって考え丁寧な作業を行います。誰かに見られている時だけでなく、誰もみていない時でも、加減せず、プロ意識をもって業務します</p>		
<p>2. 仕事の進め方を見直し食事の充実を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に勉強会、研修会へ参加し、習得した知識や技術を職員間で共有し、レベルアップを図ります ・個々の得意な分野を発揮できる機会を作り、美味しくバラエティに富んだメニュー展開を致します。 ・ソフト食について、前年度実績をベースに、見た日常食と変わらない盛り付けを目標とした法人としての完成形を定着させ、より安全で、楽しめと感じられるような工夫を続けていきます ・法人の一員として、常日頃よりコスト削減を念頭におき意識して業務の効率化を図り、経費削減に貢献します。 ・5Sの考え方を定着させ、マニュアルに沿った作業を実施し、衛生的な作業空間を整えます。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で外部研修参加の機会はなかった。次年度は Web を活用したセミナー等への視聴参加、部署内での勉強会など、現状で可能なスキルアップの機会を活用したい。 ・ソフト食については、昼食、夕食中心に手作りのものを安定して提供しており、サテライトへも同じ対応ができています。今後より良い彩りや盛付、味、食感等、改良を重ねていきたい。又、ご利用者の食形態を変更した後の栄養状態の維持・向上が期待できるような栄養面での充実も図っていく。 ・コスト削減として、サテライト委託業者撤退と同時に配食サービスがスタートし、事業所毎のコロナ感染の影響などを受けつつ、食数も不安定で業務負担も様々な場面で増えた中、新規目標に向け真摯に向き合い現時点では実績として数値化されてはいないが、事業成功までの一助として他部署職員連携のもと、給食職員も一丸となって頑張った。引き続き、業務の標準化と効率化、職員の定着により、個々のスキルをフル活用した、作業レベルの底上げを図りたい。 ・衛生面に関しては、清掃担当者中心に日々の業務の中で分担しながら作業に従事できた。時間的に十分とはいえなかったものの、5Sの考え方は浸透してきたように感じる。しかし、個々の衛生面に認識の温度差もみられるため、今後、部署内において、衛生マニュアル、食中毒やその他介護事故防止等の基本的な事を学ぶ勉強会や、配食サービスも含め、衛生的な空間作りを行っていきたい。

II 職種別の実践目標

【栄養士】

A：80%以上（大方）達成している B：50～80%未満（半分以上）程度達成している C：50%未満の達成状況

況

年間重点目標	達成度	コメント
<p><u>1. 重度化・見取りケアにも適切に対応できる食事サービス及び栄養ケアの提供</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者の日常的な食事状況把握や他職種からの情報をもとに個々のニーズに迅速に対応する。 ・新規入所者の栄養ケア加算を入所後最短期間で算定できるよう実施体制強化するとともに、経口維持加算や低栄養リスク改善加算の新規算定を実現する。 ・給食係全体でご利用者の状態を共有できるようミーティングや給食会議で情報伝達する。 	B	<p>重度化・看取りケア対象のご利用者に対して、他職種との連携により、タイムリーにそれぞれの食ニーズに対応することができた。毎朝のミーティングや連絡ノートを活用して情報伝達・共有することで、給食係皆でご利用者の食に関わっているという認識を持ち、各職務に対してベストを尽くせたと思う。</p> <p>・栄養関連加算に関しては、昨年度と同じ内容の算定に留まり横這いとなっている。新年度は「令和3年度介護報酬改定」に沿った新規加算を早い時期に算定できるよう整備を進めたい。</p>
<p><u>2. 職員が定着し安定した給食運営を継続する</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規採用職員に対しその方のスキルや経験に応じたOJTを実施する。定期的な面談およびフォローアップで悩みや不安を共有し解決できるようなシステムを構築する。 ・給食係り全体で意見交換しながら業務上の問題点を前向きに解決できるよう給食会議を充実させる。 ・各種研修やセミナーへ参加し厨房運営や人材育成に関する理解と知識を身につける。 ・介護現場と円滑に業務調整ができるよう、給食業務の理解と把握に努める。 	B	<p>今年度下半期は上谷刈施設への配食に関連して、新規に採用された職員の育成が求められた。しかし配食業務自体が栄養士含め給食係職員にとっては初めての事であり、手探り状態でのOJTとなった。</p> <p>配食に関しては法人のメインプロジェクトとして各幹部の方々の助言も頂き、新規採用職員だけでなく、給食係職員全体のスキルアップにつながっているように感じる。次年度も両施設の食事サービスの質を向上できるよう、給食係というチームの『今ある人材』と『各メンバーの強みを活かすこと』を大切に、新年度も一丸となって取り組んで行きたい。</p> <p>・今年度取り組めなかった項目に関しては次年度の課題とし、コロナ禍であっても取り組めるやり方を模索したい。</p>

【調理員】

A : 80%以上 (大方) 達成している B : 50~80%未満 (半分以上) 程度達成している C : 50%未満の達成状

況

年間重点目標	達成度	コメント
1. 安心、安全な食事を提供します ・各種マニュアルの遵守と活用 ・新人職員の受け入れ体制の整備 ・コミュニケーション能力の向上	B	・新人職員受け入れについては、担当者より調理、業務全般について指導を実施、スムーズなコミュニケーションが図られるよう配慮を行ってきたが、職員の定着は厳しい状況であった。引き続き、個々のレベルに応じた指導、声掛け、コミュニケーション能力の向上に努め、安定した職場環境を作っていく。
2. ご利用者への体調を整える食事の充実を図ります。 ・的確な食事形態での提供と調理技術の向上 ・衛生管理と健康管理、清潔な身だしなみの徹底 ・コスト意識の充実と業務のスリム化	A	・食事形態移行や、形態確認等々、必要に応じて指示出しし綺麗かつ、丁寧な盛り付けをするよう全員が配慮し対応してきた。衛生管理について、本部作業空間はもちろん、配食サービス開始後はより一層気を引き締め、温度管理の徹底や身だしなみへの配慮を充実させ業務に臨んだ。又、不要なランニングコストを出さないよう十分意識して業務を行った（エアコン、水道、電気など）

2020年度 双葉ヶ丘地域包括支援センター 事業報告

I 基本方針・重点目標

基本方針

A: 80%以上 (大方) 達成している B: 50~80%未満 (半分以上) 程度達成している C: 50%未満の達成状況

基本方針	達成度	コメント
高齢者とその尊厳を保ち、健康で生きがいを感じながら、社会を支え続けるとともに、支援が必要になっても地域で安心して暮らすことができる社会の実現を目指します。	B	新型コロナウイルス感染症の影響が長期化してきており、先行き不安の相談が増えている。 コロナ禍でも安心して生活ができるよう、事業内容を検討し対応を行った。

重点目標

A: 80%以上 (大方) 達成している B: 50~80%未満 (半分以上) 程度達成している C: 50%未満の達成状況

重点目標	達成度	コメント
1. 地域・関係機関との連携・ネットワークづくり	B	特に民生委員との関係改善に取り組んだ。次年度も継続
2. 認知症対策の推進	B	カフェの立ち上げを行っている。
3. 介護予防の推進	B	コロナ禍でも工夫し予防教室を開催。また「体力測定会」開催し介護予防の推進を図った。
4. 職員一人一人の生産性向上	B	定期ミーティングを増やし、検討の場を設けることでスキルアップに繋がられた。
5. 各部署間の職員の交流・連携	B	最新情報の共有を積極的に行ったり、給食配膳などできる協力は実施している。

2020年度 地域密着型特別養護老人ホーム 寶樹苑いずみ

事業報告

I 基本方針・重点目標

基本方針

A:80%以上(大方)達成している B:50~80%未満(半分以上)程度達成している

C:50%未満の達成状況

基本方針	達成度	コメント
ご利用者やご家族、また地域住民や関係機関など、関わっていただくすべての方から信頼され安心できる施設運営を目指します。	B	昨年度と比べ社会情勢も大きく変化した中での運営になったが、施設として感染症の流行を抑えながら安全な運営を行えたことは一つの結果であったと感じる。しかしながら感染症予防の対応を行うことについてはご家族や近隣にお住いの方、関係事業所への影響も甚大であったと思われるため今後も一層知恵を絞りコロナ禍でも施設に関わって頂ける方の安心や信頼の構築に努めていきたい。施設サービスやケア内容については未だ多くの課題が散見されるため、今の状況を言い訳にせず改善に努めていく。

重点目標

A:80%以上(大方)達成している B:50~80%未満(半分以上)程度達成している

C:50%未満の達成状況

重点目標	達成度	コメント
○施設運営におけるクオリティの向上	C	今年度においてはこれまでと異なり新たに感染症対策というテーマが大きくなってきたこともあり既存サービスやケアクオリティの向上までには至らなかったと感じる。当面は現状が続くものと思われるため段階的に感染症予防と質の向

		上の両立を目指していく。
○社会資源”寶樹苑いずみ”としての地域支援、地域連携の実践	B	感染症予防の観点から施設に近隣住民を招いて行う活動等については休止しているが、地域子供会との連携(資源回収)や市営住宅入居者との繋がり維持、泉中央包括事業への協力等許される範囲の中で活動を維持することが出来た。
○自身の”こうあるべき”に捉われず、全体でトライする姿勢を持つ。	B	感染症対策や給食事業の自主化など施設としても変化の大きい一年となったが、都度各部署でできること、協力できることを探りながら柔軟に施設運営へ協力をしてくれたと感じる。未だ各役職者等の情報共有やディスカッションについては頻度も含め途上の部分が多くあるため細やかにコミュニケーションを図りながら互いの多様性を理解した中でご利用者、職員へ還元していけるよう努めていく。
○法人内での連携を深め質の向上に繋げる。	C	先述の通り今年度においては感染症予防の観点から各拠点毎での運営をせざるを得ない状況もあり、昨年度と比べ法人内での連携については低下したと感じる点も多かった。後期においてはリモート等を活用した連携も増えており前期に比べ向上できたと感じる。

II 職種別の実践目標

【介護員】

A:80%以上(大方)達成している B:50~80%未満(半分以上)程度達成している

C:50%未満の達成状況

年間重点目標	達成度	コメント
<ul style="list-style-type: none"> ・寶樹苑いずみのユニットケアを再確認するため、ユニットケア委員会を設け、いずみとしてのユニットケアを全職員で構築していく。その中で検討した内容を現在のユニットへ反映し、ご利用者個々の生活向上に繋げる。 ・職員体制の安定化を図り、ケアの向上(事故防止、感染症対策教育等)を図ることで、ご利用者、ご家族からの信頼を得ていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニットケア委員会を通してユニットケアの基本的内容の勉強会を行う。(資料読み込み研修)いずみ全体で共有はしたが、ユニットでの動きまでには至らず。内容を理解した事で今までのケアの振り返りに繋がった点もありわずかであるが、生活向上に繋がれたと感じる。 ・コロナ禍であり、家族面会等のない中で信頼を得る為、事故防止、感染症等の内部研修を工夫して行い、職員体制の安定化、ケアの向上に繋がれた。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の夏祭りなど地域行事へ参加していく。また、児童支援や寶樹苑いずみの夏祭り等へ地域の方に来苑して頂き、地域との関わりを深める。 ・ご利用者の日々の生活の中にごく当たり前の外出、買い物を実施する事で個別に地域と関わる。 ・寶樹苑いずみのベースアップを目標とし、職員から幅広く意見を出してもらおう。視野を広く高く持ち、慣例に捉われず柔軟に検討を行う。また双葉ヶ丘施設の取り組み、ケア内容、業務等情報を合同会議等から得て、よい物を還元していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍であった為地域に出向く事、来苑して頂く事は中止となった。 ・新型コロナウイルス対応もあり、これまで行ってきたごく当たり前の事が出来なくなってしまった。ご利用者の買い物等についてはネットショッピングも活用するなど代替のサービスも模索している。 ・職員から意見が聞けるよう、出してもらえよう配慮した。コロナ禍の中、何をするにも工夫が必要だった事もあり、幅広く柔軟な検討が行えたと感じる。本部との合同会議等中止になったものもあったが、本部の流れに合わせた検討(事故防止研修)を施設内で行っている。

【相談員】

A:80%以上(大方)達成している B:50～80%未満(半分以上)程度達成している

C:50%未満の達成状況

年間重点目標	達成度	コメント
<p>○経営の健全化を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画的に実態調査を行い、申込み者の心身の状態や家族様の状況を確認し、入居指針に基づいてスムーズに入所できるよう支援する。 ・緊急ショートを受け入れ等、柔軟な対応を継続していきます。緊急時でも利用者が安心してご利用頂けるよう情報収集を行うと共に関係部署との連絡、連携を行う。 ・居宅支援事業所、関係機関との情報交換を密に行い、信頼関係を築くことで新規紹介の獲得、定期利用者の実人数の増加を目指す。 	B	<p>長期入居申請者に対して、実態調査を積極的に行い、心身の状態や家族の状況の把握に努め、スムーズな入居に繋がるよう努めた。</p> <p>年間稼働率として長期94%、ショート95%。</p> <p>11月頃よりショートステイからの長期入居への移行が増えた影響でショートステイの稼働が低下していく想定がなされたため都度空床状況を各事業所へお知らせするなどの対応も行っている。新規利用や緊急での問い合わせを積極的に受け、稼働の回復に努めた。延長での利用を希望されるご利用者に対しても居室を有効に活用頂けるよう積極的に情報提供を行っている。</p> <p>緊急で利用される際は入居後も安心してご利用頂けるよう、ご家族、関係事業所等と情報の共有を行いながら支援の提供を行っている。</p> <p>入退居時や電話連絡等の際にご家族様と情報の共有を意識的に行うなど、信頼関係を構築しながら、要望を汲み取れるよう努めている。</p>

【介護支援専門員】

A:80%以上(大方)達成している B:50～80%未満(半分以上)程度達成している

C:50%未満の達成状況

年間重点目標	達成度	コメント
<p>○ケアプランの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入居者様が健康を維持しながら充実した生活を営むために、情報共有を行い、多職種連携のもとで課題、ニーズに真摯に向き合い支援に努める。 ・入居者様、家族様の意向を引き出し、より質の高い生活を目標として具体的で生活に寄り添ったケアプランの立案を目指す。 	B	<p>入居者の健康を維持することを目標に状態に合わせた支援を目指し、体調の変化に注意して他部署とのやりとりを行いながら、支援の提供を行うことができた。反面、コロナ禍の影響により外出やイベント等が制限される中、楽しみとなる余暇活動等の代替の提供が不足していたのではないかと感じられた。感染予防に注意しながらご利用者の楽しみを増やし、余暇活動を図っていくことは今後の課題となっている。</p>
<p>○ターミナルケアの流れの確立</p>	B	<p>長期的にターミナルケアを実施していたご利用</p>

<p>・長期的なターミナルケアの取り組みについて、継続的な家族支援、チームケアの連携の強化、緊急時や夜間帯の対応マニュアルなど体勢やケアの流れの確立に向けて、実施した結果をもとに検討を重ねていく。</p>		<p>者においては状態が安定したことによりご家族と検討を行い一旦中止することとしている。短期間での看取り対応はについても都度実施しているが、急な状態低下による看取り対応でも職員間での情報を密に行い各部署で意識して看取りケアに取り組むことができていた。しかし、コロナ禍においての面会の対応(頻度や時間、職員の対応など)の整備が不足していたこともあり、看取り期のご家族面会の際には慌ただしくなってしまう状況もみられた。今後もコロナ禍の中での面会方法については継続して整備していく必要があると感じる。</p>
--	--	---

【看護師】

A:80%以上(大方)達成している B:50~80%未満(半分以上)程度達成している

C:50%未満の達成状況

年間重点目標	達成度	コメント
<p>○多職種協働の意識を持ちケアの統一化を図る。 ・積極的にフロアに入り入居者の様子を確認し、各フロアスタッフと情報共有し入居者が過ごしやすいような生活環境(食・清潔・排泄)作りを行う。</p>	B	<p>フロアの状況に応じて可能な限り臨機応変にケアの対応が出来た。多職種にて情報共有を行っているつもりでも共有に差がある事も多くあり、今後も課題が残ったと感じられる。</p>
<p>○緊急時や感染時の対応について勉強会を行う。 ・基本的な高齢者の身体的特徴や病気に対しての視点を持ってもらい観察の幅を広げられるように指導する。 ・新人職員を中心に吸引やAED研修を行う。 ・常に感染防止の意識づけを出来るように勉強会を行ったり啓発を行う。</p>	B	<p>感染症予防に配慮しながらの勉強会実施については苦勞することが多かった。WEBを使った勉強会の実施が多く、勉強会を受けた側の反応がよく分からないまま終わってしまうような状況もあったため、感染対策を考慮しながら相手の反応や理解度が視えるような勉強会の実施を考える必要がある。 感染症が流行する中で、ガウンテクニックなど感染対策についてもっと重点的に勉強会が行えれば良かったと感じる。</p>
<p>○医務業務の改善や備品の見直しを行う。 ・薬品や備品の期限の確認を行い無駄をなくす。 ・コストや高齢者に向いている備品の選出を行う。 ・業務のスリム化を行い、フロアに足を運べる時間を多くする。</p>	B	<p>薬品の期限が明確に分かるようにラベリングを行った。また、個人としての費用頻度の高いガーゼなどについてはご家族の了解を頂いて個人購入することで苑の負担を減らすように心がけた。 業務のスリム化がなかなか行えないので、今後も継続した業務改善を行っていく。</p>

【栄養士】

A:80%以上(大方)達成している B:50~80%未満(半分以上)程度達成している

C:50%未満の達成状況

年間重点目標	達成度	コメント
<ul style="list-style-type: none"> ・重度化する利用者個々のニーズに即した、食事・栄養ケアの提供を継続する。さらに、最後まで口から味わって頂けるソフト食の質の向上をはかり、看取り期の食事を充実させる。 	B	各部署との連携を図り、ご利用者それぞれのニーズへ対応できるような食事・栄養ケアが提供できた。看取りへの対応は、通常の食事が食べられなくなっても、負担なく栄養摂取ができるような内容を検討し提供することができた。また、ユニットが中心となり、最期まで食べたいもの・食べられるものを提供できるようなケアの実現に協力できた。
<ul style="list-style-type: none"> ・給食委託業者と連携して、日常および季節の行事食を充実させ、より顧客満足度の高い食事提供に努める。 	B	12月の給食一本化切り替え前までは、安定的に食事提供ができていた。日常の食事、季節の行事食もこれまでの実績を活かした内容で提供し、ご利用者に喜ばれていたと感じられるが切り替え後は本部の食事とのギャップによりご利用者や職員から様々なご意見を頂くことも多くあった。準備期間があまりなく説明不足だったことが原因と思われる。次年度はいずみと本部両方で満足度を高められるよう食事サービスのベースアップに努めたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・寶樹苑いずみとして基本的な食事サービス(提供方法、衛生管理等)の品質を担保した上で、各ユニットの特性を活かした食支援ができるよう、食事検討委員会にて「寶樹苑いずみ食事ケアマニュアル(仮称)」を作成する。 	C	感染症予防の観点から食事検討委員会の定期開催ができなくなり、また、年度途中で給食一本化プロジェクトの取り組みが始まった為、マニュアルの作成はできなかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域支援事業に食の面から協力し、地域住民の方々が当施設を身近に感じられるような関りを持つ。 	C	コロナ禍により地域支援事業が見送りとなった為、地域住民の方々とのかかわりは持てなかった。

Ⅲ ユニット毎の実践目標

A:80%以上(大方)達成している B:50～80%未満(半分以上)程度達成している

C:50%未満の達成状況

ユニット	年間重点目標	達成度	コメント
2階 東区 特養	・基本を振り返り個別ケアの充実とユニットケアの手法を確認しケアの向上に努めて行きます。	B	・基本となる個別ケアは行えており、この部分では大方達成できたと感じられるが、ユニットケアの手法に関しては東区として理解を深めることが難しく、この点は未達。
	・入居者ひとり1人の生活ペースを尊重した支援を提供していきます。生活の中で楽しみや役割意識を高めていけるような働きかけを行います。	A	・今期はコロナ禍の中であって、生活の楽しみの提供に関しては職員皆が苦心した点といえる。そんな中、歌の会といった定期で行える支援を定着できたのは大きな事であると言える。とはいえ、これに関しては感染防止の点において考えなくてはならないこともあり、規模を縮小して開催できる様、検討を行う事とする。
2階 西区 特養	・理念や目的、意義を毎月行うユニット会議で再確認し、ユニットケアを理解し業務を行う。職員間で情報交換、共有を密に行い、利用者の状況把握を的確に把握するように努める。 ・日常での言動や行動から利用者の思いを汲み取るとともに、必要な時には家族より随時情報収集を行い、個々に合わせたサービスを構築していく。	B	・毎月ユニット会議行っていたが、理念や目的、意義を再確認出来なかった。ユニットケアについては、ユニットケア委員会での資料や話しをユニット会議で共有することで、少しでも理解する機会が作れ、ユニットケアを理解した業務に繋がった。職員間でこまめに情報共有等が出来ており、利用者の情報把握や、早急な対応や変更も出来ていた。 ・日常生活から少しでも思いを汲み取り、サービス提供出来るように努めた。コロナの影響もあり、ご家族との情報共有は難しい点も多かった。
	・多職種の意見を聞くことで、視野を広げるとともに、どんなことにも挑戦し、新しい発見やすることでモチベーションアップに繋げる。成功しなくても、失敗を活かしスキルアップに繋げる。	B	・多職種とも情報共有を行うことで、その都度、意見をもらえ、視野等は広がった。業務内ではなかなかフリーな時間が取れず、挑戦やスキルアップには繋がらなかった。
3階 西区 特養	・事故や体調不良については、早期発見、未然防止の為の環境整備・職員体勢の工夫、勉強会等での知識向上を行い経営安定に繋げる。 ・散歩、買い物等の当り前の外出を実施する。	B	・他職種からの助言を参考に、ユニット内会議や個別の申し送りの中、職員個々のスキルに合わせた対応を検討し同じミスを繰り返さないよう改善へと繋げる努力を行った。 ・コロナ禍で散歩・外出は出来なかった。出来ない事で終わらず、余暇の過ごし方の検討を実施出来れば、ご利用者のストレス軽減、充実した生活のケア提供に繋がられる可能性もあるため継続して検討を行っていく。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニットケア手法の理解を深めると共に、法人全体の仕組みも参考にし、3階西区として柔軟な仕組み作りを行う。 ・職員1人1人がレベルアップ出来るよう日々の対応方法、ユニットケアの考え方を各ユニット職員全員で検討する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニットケアの仕組みについて資料を基にユニット内で研修を行っている。これまで行ってきたケアを見直す機会にもなっており、経験の浅い職員についてはユニットケアの仕組みについて先輩職員より説明や指導を行うことで理解を深められるように対応した。 ・新人職員への指導の中では職員自身気付きの場にもなっており、改めて自分のケアの見直しに繋げ、ケア検討の機会になった。ユニット職員間でも、お互いの取り組み方について、気兼ねなく声を掛け合い、助言や手順やケアの取り組み方を教え合う空間作りを行う事で、お互いに刺激し合い、スキルアップ向上を目指す努力が見られた。
3階 東区 ショート ステイ	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニットケアの見直しを行い、根拠に基づく利用者主体のケアについて考えまた、ユニット内の業務改善と効率化を意識し実践していく。 ・常に誠実な対応を心掛けご家族、ご利用者双方の思いの実現を目指す。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニットケア委員会を通してユニットケアの見直し、ケアについて検討は行えたが、反映までは繋がらず。業務改善、効率化等の改善の余地は大幅にあるが、実施には至らず。 ・常に誠実な対応ができるよう努めているが、現在の業務体系ではヒューマンエラーが生じやすい箇所も散見されるため今後職員と検討を重ねながら改善ができるよう努めていきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・東西職員、他職種との連携を密にご利用者のニーズの再確認を行い統一されたケアの実践各職員の考えや取り組みを共有し意思が尊重され具体的なケアに繋がる環境作りを行う。 ・法人内ショートステイの取り組みや業務内容を知り情報交換や連携を図りケアの質の向上に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・連携が不足した点もあり、ユニットとして情報共有や統一がなされていなかったことも多かった。職員体制の不安定さや、これまでの仕組み作りが不十分だった為、現状のニーズとユニットとしての対応にずれが生じていたと感じる。各職員から意見の吸い上げは出来たが、形にするには至らなかった。 ・ケアマネージャーを通してユニット会議での検討等から多くの情報を得て、ケアの質向上に努められた。

年間スケジュール

1. 行事・運営計画・内部研修計画

月	行事・運営計画	実施	内部研修計画	実施
4月	お花見外出(感染症流行により)	×	緊急時対応研修	○
5月			認知症研修①	○
6月			感染症研修①	○
7月	夏祭り(8月納涼会として実施)	○	事故防止研修①	○
8月	花火鑑賞会(感染症流行により)	×	高齢者権利擁護研修①	○
9月	敬老会	○	経営理念研修	×
10月			無量壽会ケア方針研修	×
11月			感染症研修②	○
12月			高齢者権利擁護研修①	○
1月	新年会	○	認知症研修②	○
2月			看取り研修	○
3月			事故防止研修②	○

2. 外部研修派遣計画

研修名	時期	派遣職員	実施
宮城県喀痰吸引等研修	年間1名		
認知症実践者研修	年間1名		

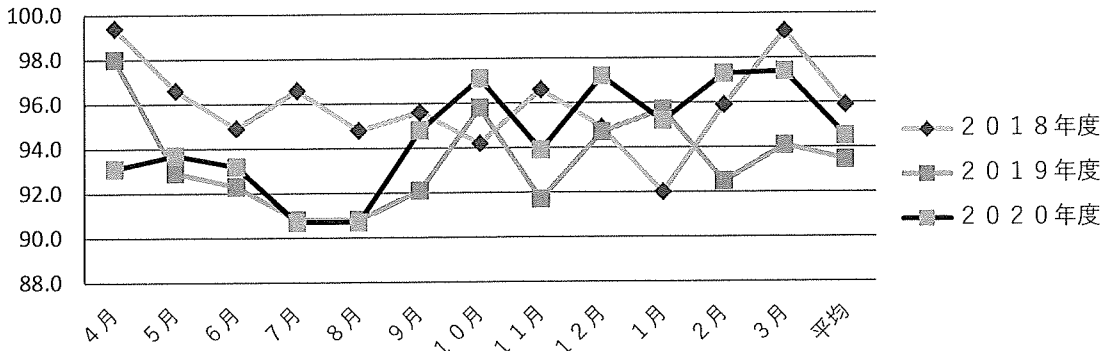
※他、必要に応じて随時参加。

寶樹苑いずみ

[特 養]

I. 稼働率

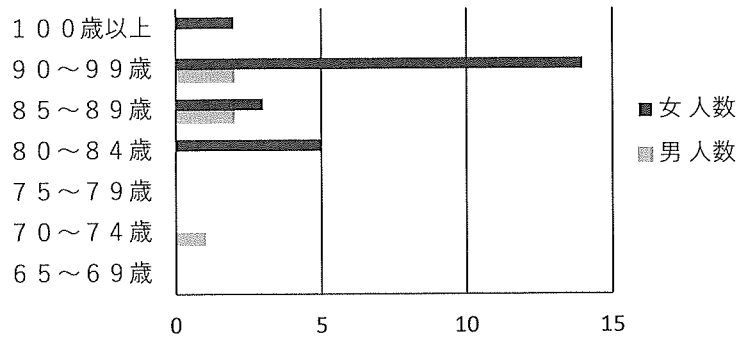
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度	99.4	96.6	94.9	96.6	94.8	95.6	94.2	96.6	94.9	92.0	95.9	99.2	95.9
2019年度	98.0	92.9	92.3	90.8	90.8	92.1	95.8	91.7	94.7	95.7	92.5	94.1	93.5
2020年度	93.1	93.7	93.2	90.7	90.7	94.8	97.1	93.9	97.2	95.2	97.3	97.4	94.5



II. 入居者構成[2021年3月31日付]

①年齢別

年齢	人数	
	男	女
100歳以上	0	2
90~99歳	0	14
85~89歳	2	3
80~84歳	0	5
75~79歳	0	0
70~74歳	1	0
65~69歳	0	0
65~69歳	0	0
入居者計	5	24
平均年齢	83.9	90.2

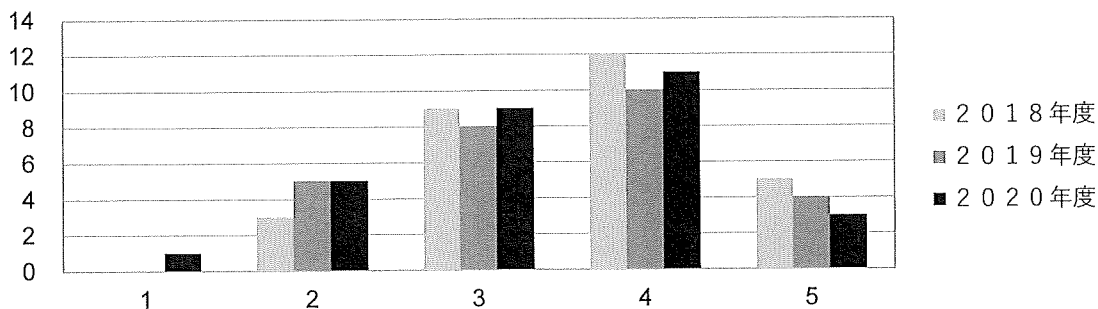


②介護度別

	1	2	3	4	5	計	平均介護度
2018年度	0	3	9	12	5	29	3.70
2019年度	0	5	8	10	4	27	3.50
2020年度	1	5	9	11	3	29	3.40

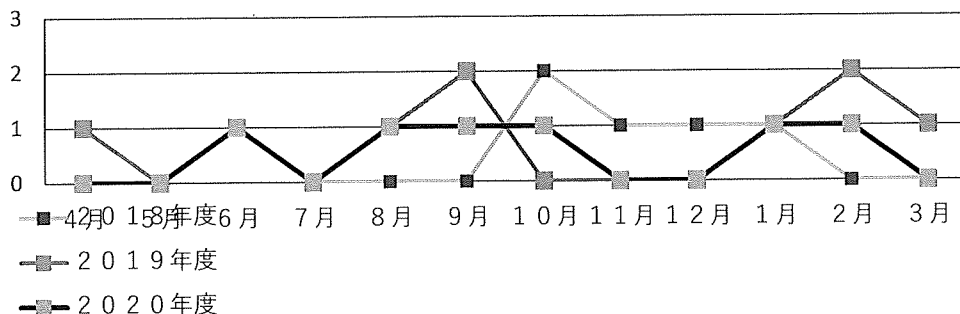
平均入所期間

男性	2年	8ヶ月
女性	3年	8ヶ月
合算	3年	6ヶ月



③年間退所状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2018年度	0	0	1	0	0	0	2	1	1	1	0	0	6
2019年度	1	0	1	0	1	2	0	0	0	1	2	1	9
2020年度	0	0	1	0	1	1	1	0	0	1	1	0	6



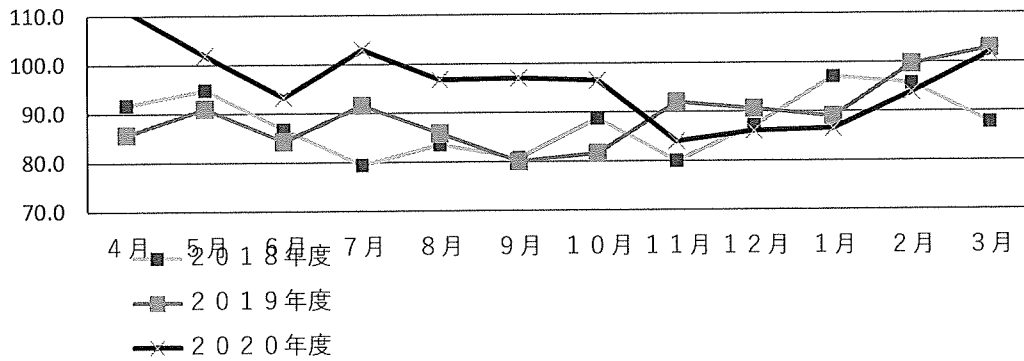
④年間退所者内訳

	2018年度	2019年度	2020年度
(1)長期入院	1	4	0
(2)在宅復帰	0	0	0
(3)他施設へ入所	0	1	1
(4)病院にて死去	0	0	1
(5)施設内にて死去	5	4	4
(6)看取り加算算定者	3	2	3
合計	6	9	6

[ショートステイ]

I. 稼働率

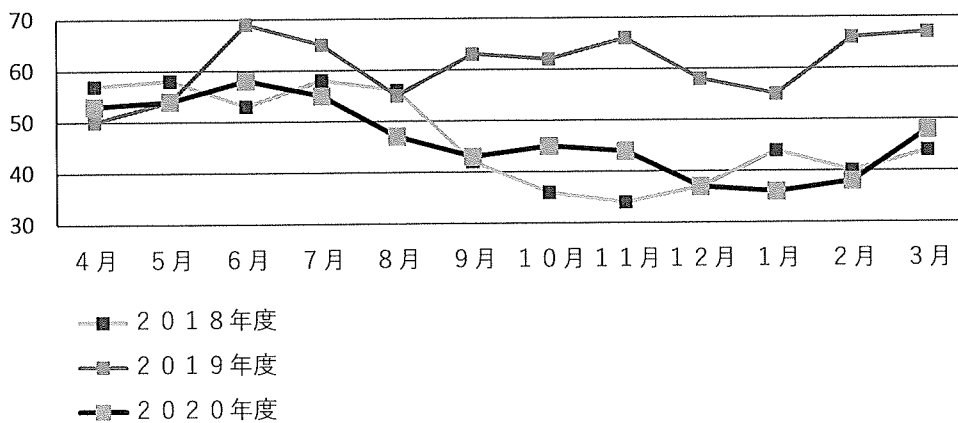
稼働率(%)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度	91.7	94.8	86.7	79.4	83.5	80.7	88.7	80.0	87.1	97.1	95.7	87.7	87.8
2019年度	85.7	91.0	84.3	91.6	85.8	80.0	81.6	92.0	90.6	89.0	99.7	102.9	89.5
2020年度	111.0	101.9	93.3	103.0	96.8	97.0	96.5	84.0	86.1	86.5	93.9	101.9	96.0



II. 入・退苑状況

①入・退苑延べ件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2018年度	57	58	53	58	56	42	36	34	37	44	40	44	559
2019年度	50	54	69	65	55	63	62	66	58	55	66	67	730
2020年度	53	54	58	55	47	43	45	44	37	36	38	48	558



2020年度“日だまりの家”いずみデイサービスセンター

事業報告

I 基本方針・重点目標

基本方針

A: 80%以上 (大方) 達成している B: 50~80%未満 (半分以上) 程度達成している C: 50%未満の達成状況

基本方針	達成度	コメント
日だまりデイにしかできないものを生かしながら、御家族には「安心して送り出せる場所」、御利用者には「来て良かった、また来たい。」と感じてもらえる様なアットホームな居場所を目指します。	B	<p>比較的介護度の低いご利用者が多いこともあり、時事ニュースや歓談の時間を大切にし人と人が寄り添い、おしゃべりをする時間が産み出す温かさを大切にしつつ、季節を感じてもらえる話題も提供することで認知症の予防にも繋がるように努めた。</p> <p>新型コロナウイルスの影響で規模の縮小やプログラムの制限等は否めないものの聴力、視力に障害を持つ方にも合わせた脳トレ、レクリエーションを提供できる工夫もし、コロナ禍の中でもすべての御利用者に「今日は楽しい1日だった」「また来たい」と思ってもらえる様なプログラム作りに努めた。</p> <p>また、生活リハビリとしての家事作業等を通して御利用者の意欲や認知症低下の防止にも努めた。</p>

重点目標

A: 80%以上 (大方) 達成している B: 50~80%未満 (半分以上) 程度達成している C: 50%未満の達成状況

重点目標	達成度	コメント
1. ひとりひとりに寄り添いながら、御利用者の思いや訴えを引き出し、安心出来る環境作りを行います。	B	<p>御利用者と関わる時間、送迎時や電話での御家族との情報交換を基にして、ニーズの把握に努めている。</p> <p>また、職員各々の意見を汲み取ることで日々の業務の改善につなげることを心掛け、御利用者に還元できるように取り組んでいる。しかしながら新型コロナウイルスによるモチベーショ</p>

		ンの低下、感染予防のための消毒等の業務量の増加による基本的なケアの低下（言葉遣いや立ち振る舞い、ご利用者への気遣い等）が目立ち「安心できる環境」には至っておらず。来年度の課題として継続とする。
2. 職員それぞれが役割を持ち、やりがいを感じられる体制作りを行います。	C	カレンダーの担当制、リハビリ体操やレクリエーションの輪番制により職員が自ら考え実行し、他の職員が協力するという現状の体制を継続し、役割を持ちながら御利用者に関われる機会を設けた。 しかしながら、コロナの影響による様々な制限や職員数の減少によるモチベーションの低下、コミュニケーション不足が目立ち、やりがいを失いがちになる状況があった。
3. 御利用者が地域や社会との接点を大切にし、関わりを持つための仕掛け作りを行います。	B	ご利用者が作った雑巾を加茂小学校へ寄贈したものの、新型コロナウイルスの影響により、それ以外に地域や社会との接点づくりをすることは出来ず。外出や外部との接触の機会も減少している状況が続いている。

II 職種別の実践目標

【介護員】

A：80%以上（大方）達成している B：50～80%未満（半分以上）程度達成している C：50%未満の達成

状況

年間重点目標	達成度	コメント
1. アットホームの体現と再構築による御利用者満足の実現 ・アットホームとは何かを再度考え、表面だけではなく内面からも御利用者に寄り添い、個々のニーズを把握することで温かく過ごせる環境作りに努めま	C	「アットホームとは何か?」「御利用者様にとって居心地の良い場所とはどういうところなのか?」そこをチームとして検討するまでには至らず。 新型コロナウイルスによる稼働率の低下や、感染予防対策に伴うストレス、職員数の不足によりモチベーションの低下が発生し、日々の業務をこなすことで精一杯な1年だったように感じる。まずは基本的な立ち振る舞いや言葉遣いなど接遇の基本から見直し、ご利用者に安心や楽しみを提供できるような対応、環境作りを行っていく。また来年度は、日

<p>す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・喜びや失敗、疑問等を声にして共有し、そこから御利用者の喜びに繋げることが出来る仕組み作りを行います。 ・身だしなみ、挨拶、言葉遣いという接遇の基本を振り返り、心から安心していただける空間づくりを目指します。 		<p>だまりデイサービスに求められている役割の再検討をし、御利用者は何を求めているのか、それに対して私たち職員はチームとしてどのようなサービスを提供すべきなのかを職員共通のテーマとして進めていきたい。</p>
<p>2. 職員一人一人のスキルアップと専門性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・御利用者の状態を確実に伝達し共有することで、個々のケアのポイントを把握することで、日々の状態の変化に応じた対応を行います。 ・内部研修や勉強会を通して知識の向上を図ると共に、他施設での取り組みについて学ぶ機会も設けることで固定観念にとらわれず「考え続ける」ケアを目指します。 ・職員の意識と意欲の向上を図り、業務の改善やケアの向上に繋げるため、職員一人一人が何をすべきか、自分で考えて業務やケアに取り組めるような体制作りを目指します。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響でしばらくの間、会議や内部研修等が開催できず資料配布のみとなっている。 ・新型コロナウイルスによる稼働率の低下や、感染予防対策に伴うストレス、職員数の不足によりモチベーションの低下が目立ち、日々の業務をこなすことで精一杯な1年だったように感じる。 ・毎日、昼のミーティングでの申し送りを通し、タイムリーに御利用者の状況を共有することで安全で的確なケアの実現に繋げることが出来ている。しかしながら情報の伝え忘れや漏れ等もあるため、次年度は情報を伝えるタイミングや伝達方法等を検討したい。 ・月2回の定例会議を通して御利用者の現状確認を実施。日々の気付きを共有し、それを御利用者の生活力の改善や危険予知に活かした。 ・毎月実施している日だまり会議やケア会議で「通所介護計画書」の検討を全職員で行うことでご利用者本人にとって何が求められているかを共有し、同じ認識を持ってケアの提供ができるよう努めた。
<p>3. 地域に根差したデイサービスを目指し、交流を通じた充足感</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで通りの地域との関わりを継続しつつ、より一層、楽しみと役割の両立が出来るデイサービスを目指します。 	C	<p>新型コロナウイルスの影響で、これまで実施してきた地域支援室による児童支援、上谷川北子供会の七夕飾り作り、めるへんの森幼稚園等との交流会が実施できず、状況を見ながら地域に貢献できる企画等も検討したい。</p>

【相談員】

A：80%以上（大方）達成している B：50～80%未満（半分以上）程度達成している C：

50%未満の達成状況

年間重点目標	達成度	コメント
<p>1.利用者のニーズに沿ったサービスの提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者のニーズの把握に努めると共に、本人の好きなこと、得意なこと等を生かせるようなサービスの提供・計画書の作成に努めます。 ・ご家族やケアマネジャー等と積極的に情報交換を行い、情報の共有と適切なサービスの提供に努めます。 ・認知症や接遇向上についての研修を行い、意識を高めると共に、利用者の立場に立ったケアの提供に努めます。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者の生活歴や趣向を把握したうえで関わりを持ち、利用中の様子を観察しながら利用者が望むサービスが提供できるよう職員間で話し合い、計画書に盛り込めるよう努めている。 ・ご家族からご自宅での様子を伺うと共に、ご本人や介護に対する思いにも耳を傾けながら、情報交換を行うよう努めた。また、必要に応じてご利用者やご家族の状況についてケアマネジャーへ情報提供を行い、必要なサービスが受けられるように努めた。 ・接遇についての研修を行い、日々の自分のケアについて振り返る時間を持つことで、ケアの向上に対する意識を高めるよう働きかけを行っているが、より良いケアに向けて職員間で統一した意識を持つことが必要となっている。
<p>2.関係機関との連携を深める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の利用状況報告にて利用者の状況を詳細に伝えると共に、必要時には迅速な報告を行うことでケアマネジャーとの信頼関係を深めます。 ・他事業所や同一職種間の情報交換等を行い、より良いケアへつなげていけるよう努めます。 ・ショートステイとの情報交換を行うことで、統一したケアにつなげられるよう支援します。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に細やかな情報提供を行うとともに、利用者の状況変化に応じて必要な情報提供を迅速に行うよう努めた。 ・双葉ヶ丘デイとの情報交換を行い、コロナウイルス対策等、有事には対応方法についての情報交換を行った。また、双葉ヶ丘デイが閉鎖期間においては、ご利用者の受け入れも行き、柔軟な対応を行い、支援を行うことが出来た。 ・寶樹苑いずみショートステイを併用利用されている方の利用時の様子を把握するとともに、必要な情報を共有し連携出来るよう情報交換に努めた。
<p>3.地域に開かれた事業所作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内会や子供会との関係を継続すると共に、地域支援室との連携を深めます。 ・地域の社会資源を把握し、積極的に地域社会に 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ということもあり、外部との積極的な関わりを持つことは出来なかったが、ご利用者が手作りした雑巾を地域の小学校に寄贈することで、社会との繋がりや地域貢献に資することができた。また、ご利用者も「誰かの役に立てた」という満足感が得られたことで、社会性の維持や活動意欲の向上につながる事が出来ていた。

参加すると共に、自分たちに出来ること・ニーズの把握に努めます。		
---------------------------------	--	--

年間業務計画 [“日だまりの家” いずみデイサービスセンター]

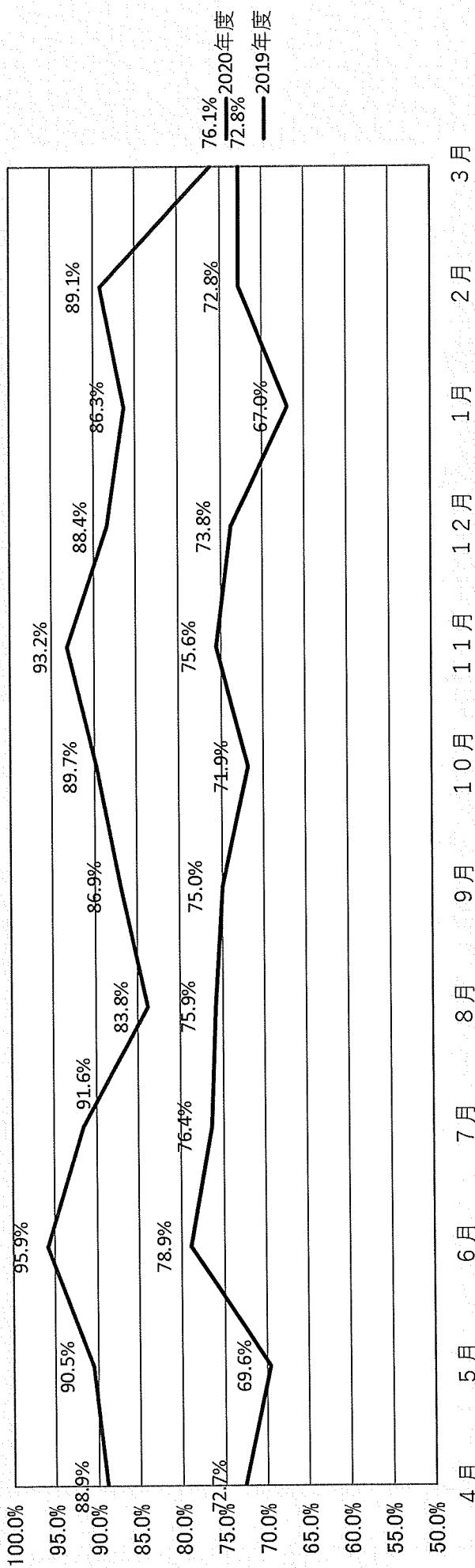
月	計 画	実施	月	計 画	実施
4月	お花見外出 リスクマネジメント研修	× ○	10月	芋煮会 感染症・蔓延予防研修 彼岸花見学(外出)	○ ○ ×
5月	春の遠足(外出) 避難訓練 認知症研修	× × ○	11月	紅葉狩り 干し柿作り	× ×
6月	家族懇談会 あやめ見学(外出)	× ×	12月	家族懇談会 クリスマス会 利用者アンケート実施	× ○ ○
7月	緊急時対応研修 仙台市内散策 個別マニュアルの見直し	○ × ○	1月	初詣(外出) みずき団子作り 高齢者権利擁護研修 個人マニュアルの見直し	× ○ ○ ○
8月	七夕見学(外出) 夏祭り	× ○	2月	節分、恵方巻作り	○
9月	敬老会	○	3月	ひな祭り 法人マニュアルの見直し	○ ○
定例 業務	ケア会議(第2月曜/月) 日だまり会議(第4金曜/月) カンファレンス			モニタリング 利用料金請求 計画書の関連機関送付	

”日だまりの家”いずみデイ 稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用者数(1日平均/定員16名)	11.6	11.1	12.6	12.2	12.1	12	11.5	12.1	11.8	10.7	11.7	13.1	11.8
2020年度稼働率	72.7%	69.6%	78.9%	76.4%	75.9%	75.0%	71.9%	75.6%	73.8%	67.0%	72.8%	72.8%	73.5%
登録人数(月末)	42	41	40	42	40	40	39	38	38	36	36	32	39
利用開始	2	0	0	2	0	0	2	0	1	0	0	0	0.6
利用終了	1	1	1	0	2	0	3	1	1	2	0	4	1.3
体験利用	2	0	0	1	0	2	2	1	2	0	0	0	0.8
2019年度稼働率 * 参考	88.9%	90.5%	95.9%	91.6%	83.8%	86.9%	89.7%	93.2%	88.4%	86.3%	89.1%	76.1%	88.4%

運営状況

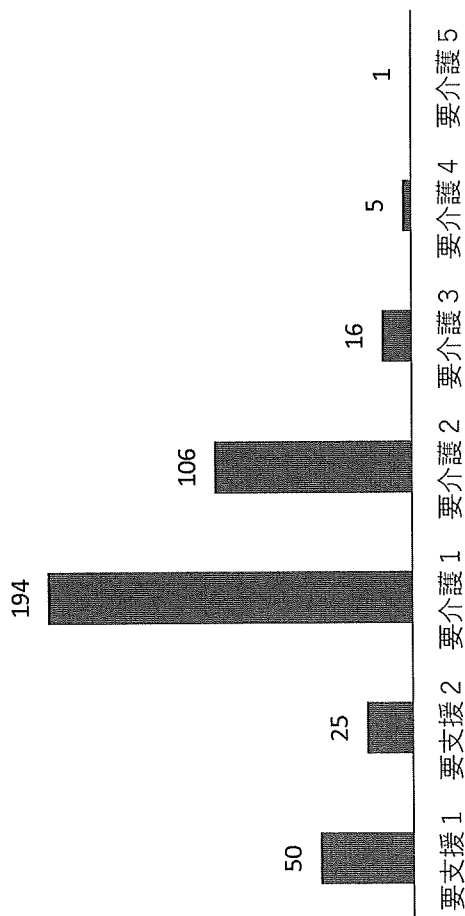
Chart Title



事業所別構成比率・介護度別構成比率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
要支援1	4	5	5	6	6	5	4	3	3	3	3	3	50
要支援2	4	3	3	2	3	0	1	2	2	2	2	1	25
要介護1	17	14	16	17	18	16	17	17	17	16	14	15	194
要介護2	9	9	10	10	10	10	10	9	9	7	7	6	106
要介護3	1	1	1	1	1	2	1	1	3	2	1	1	16
要介護4	0	0	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	5
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
平均介護度(要支援は要介護1と同等として算)	1.3	1.3	1.4	1.6	1.7	1.8	1.6	1.4	1.4	1.1	1.0	0.8	1.6

介護度別 (人数は年間総数)



事業報告

I 基本方針・重点目標

基本方針

A：80%以上（大方）達成している B：50～80%未満（半分以上）程度達成している

C：50%未満の達成状況

方針・目標	達成度	コメント
住み慣れた地域で、できる限り自立した生活ができるよう、その時の最善のプランを一緒に考え提案します。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントを丁寧に行うことを心掛け、利用者本位の最善プランの提案を継続していくためのマネジメントに努めた。 ・地域で生活していることを意識し、地域での役割やインフォーマルの視点を持ってケアプランを作成した。 ・通院困難な方は主治医と連携を図り、訪問診療を導入することで、入院せず自宅での生活が継続できるよう支援を行った。 ・吸引、胃瘻等必要な方で1事業所では対応が困難なケースは、数か所の事業所を利用することで自宅での生活が安心、安全にできるように調整、ケアプランの作成を行った。

重点目標

A：80%以上（大方）達成している B：50～80%未満（半分以上）程度達成している

C：50%未満の達成状況

方針・目標	達成度	コメント
1. 地域の中で、信頼される事業所を目指します。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新規相談での入院中の方の退院調整、カンファレンスへの参加、自宅の確認なども行い、ご依頼のあったケースに丁寧に対応した。 ・新規申請中の暫定の方や相談段階の方であっても速やかに対応することで、信頼に繋がる対応を心掛けた。

		<ul style="list-style-type: none"> ・入所施設相談の際に、当法人施設への希望をされる方も多かった。 ・新規依頼は多方面の包括センターから定期的にいただくことができていた。(6包括・計30名) 稼働率の平均も84.6%と目標値を上回ることができた。
2. 地域関係機関との関係性、連携を深めます。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点より、直接顔の見える関係性作り、とはいかなかったものの、病院や包括からの緊急の依頼にも速やかに対応し結果報告を随時行った。利用者の不利益にならないよう、日ごろから関連機関との連絡はこまめに行うことができた。 ・包括からの提案で、民生委員等と関わる機会を持つことができた。
3. 特定事業所加算を取得している居宅介護支援事業所として、必要なスキルを磨き、専門性を高めます。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・定例会議での情報共有、事例検討に関する機会を多く設け、課題の整理を行うよう努めた。各々のスキルを活用しながら互いの向上に努めることができた。 ・担当ケースの支援を通して介護保険以外のサービスも利用出来るよう、自ら調べ情報提供を行った。 ・研修等の参加機会が少なかった。今後、オンラインを活用し、参加の機会を増やしていく必要がある。

Ⅱ 職種別の実践目標

【主任介護支援専門員】

A：80%以上（大方）達成している B：50～80%未満（半分以上）程度達成している

C：50%未満の達成状況

年間重点目標	達成度	コメント
支援困難ケースでも適切に対応できるよう事業所の質の向上を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝のミーティング時に、各々が昨日の状況を報告。言葉に出すことで自分の中で支援の整理ができるようにしている。また、その中で他ケアマネが気付いた点を、タイムリーに意見交換し、支援方法について検討することが出来ている。 ・2ヶ月に1回ケアプラン勉強会を開催し、支援に不安の大きい利用者についての事例検討会を実施。また、運営基準について全員で読み合わせを行い、法令順守に努めた。 ・他法人合同会議はコロナ感染予防の為、3月に実施したが、オンラインでの参加を依頼した。特定事業所の算定要件であり必須事項であることから、オンラインでの開催実績を作れたことは良かったと思われる。
スーパーバイザーとしての役割を意識し、課題を整理し介護支援専門員と一緒に考え、気づきと自己解決ができるよう指導ができる。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・改めての会議の場だけではなく、日常の業務の中での支援相談も極力受け止め、一緒に考えながら、気づきと自己解決ができるよう心掛けた。 ・利用者は個人との契約ではなく、事業所としての契約であることを伝え、課題について、担当ケアマネが一人で抱えることのないようにした。

【介護支援専門員】

A：80%以上（大方）達成している B：50～80%未満（半分以上）程度達成している C：50%未満の達成状況

年間重点目標	達成度	コメント
常に丁寧な対応を心掛け、事業所内での情報共有及び、定期的な接遇の振り返りの機会を設け、事業所として統一した対応を行っていく。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝のミーティングで情報共有を図り、自身の支援の振り返りを行い、判断に迷う時には他職員からの助言などを受け、支援に繋げた。緊急対応した際などは、随時情報共有を行い、担当者不在時に連絡があっても対応が出来るようにした。 ・ミーティングや申し送り、会議を通し、情報共有を図ることを継続した。 ・毎月、接遇の振り返りを実施した。
担当圏域・近隣地域包括支援センター、医療機関、サービス事業者と日頃から関係性を構築し、速やかな情報共有を図る。また、地域の催しや活動に赴き、顔の見える関係作りを行い、地域資源の把握に努める。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・包括センターからの新規、緊急の依頼も速やかに対応し、結果報告を随時行った。 ・新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点より 一同を介しての担当者会議開催の機会が少なかったが、各事業所との連絡を密に取り進めていくことで、関係性の構築が出来た。 ・新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点より、医療機関へ直接赴くことが難しい状況も多かったが、入院の際は連携室への連絡や入院時情報提供書の作成・提供、退院時は退院に向けての調整、必要時は退院調整カンファ

		への参加を行った。 ・地域活動自体も減少、及び参加が難しい状況であった。地域との関係性作りは未実施となった。
介護支援専門員として質の向上に関する研修会へ積極的に参加し、事業所内での報告研修、外部との勉強会を実施する。	B	・新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点より、上半期は研修会や外部との勉強会は中止が相次いだ。 下半期は研修形態が対面からオンラインに変更となり、参加自体はしやすくなった。質問やグループワークがない為、情報交換や情報共有のしにくさを感じた。事業所内での共有を図るには工夫が必要であった。 ・毎週1回の定例会議、月1回の居宅ミーティングでの内部研修は実施できた。

年間行事計画

月	計 画	実施	月	計 画	実施
4月	事業計画実施に向けての確認 2019年度事業報告まとめ 集団指導報告・確認	○ 事業計画内容確認 ※集団指導開催なし	10月	上半期事業報告まとめ	○ 上半期事業報告まとめ ○ 事例検討会
5月		○ 認知症ケアの理解	11月		○ 高齢者虐待と身体拘束について
6月	実地指導方針及び前年度実地指導結果及び留意事項等確認	○ 事例検討会 ※実地指導方針及び前年度実地指導結果及び留意事項等確認は8月に実施	12月		○ 支援の方向性について
7月		○ 個人情報保護について	1月	次年度事業計画検討 お客様アンケート実施	○ コロナ禍環境下の整備について
8月	他居宅合同勉強会	○ 実地指導結果及び居宅介護支援業務における留意点について ※他居宅合同勉強会は	2月		○ 研修報告会

		コロナ感染 予防のため 中止			
9月	特定事業所集中 減算チェック	○ 特定事業所 集中減算チ ェック ○ 事例検討会	3月	他居宅合同勉強会 特定事業所集中減 算チェック	○ 他居宅合同勉強会 ○ 特定事業所集中減算 チェック

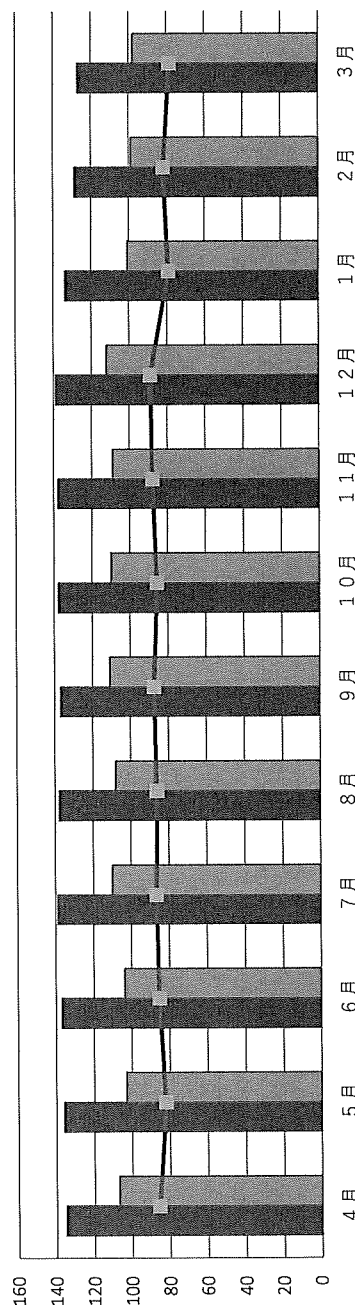
※居宅ミーティング：月1回開催。その他に毎朝、前日の申し送り、利用者情報共有のため
のミーティング実施。

※認知症ケアの理解、高齢者虐待防止、身体拘束廃止、個人情報保護についていずれかの
月で勉強会を実施。

2020年度 “日だまりの家” いずみく居宅>居宅介護支援報告書

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
サービス計画作成契約者数	135	136	137	139	138	137	138	138	139	134	129	127	1627	135.58
居宅介護支援費請求者数	107	103	104	110	108	111	110	109	112	101	99	98	1272	106.00
稼働率(%)	85.7	82.1	85.4	86.8	86.1	87.5	85.7	87.9	88.9	79.2	81.8	78.6		84.6
月遅れ	3	2	6	3	4	3	1	4	3	1	6	2	38	3.17
介護予防受託者数	19	20	19	17	17	17	18	20	19	18	19	20	223	18.58
新規契約者数	6	4	4	3	2	3	5	4	7	3	3	3	47	3.92
契約終了者数	3	3	3	1	3	4	4	4	6	8	8	5	52	4.33

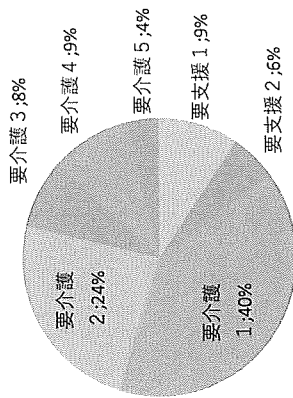
居宅介護支援請求数および稼働率



要介護度別利用者推移表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	11	12	11	11	11	10	12	12	12	12	13	14	141
要支援2	8	8	8	6	6	7	6	8	7	6	6	6	82
要介護1	48	49	50	50	51	51	51	49	52	50	49	47	597
要介護2	30	29	29	31	31	32	31	31	32	27	27	27	357
要介護3	14	12	12	13	11	10	10	9	10	8	7	6	122
要介護4	11	10	9	11	11	13	13	14	12	11	12	14	141
要介護5	4	3	4	5	4	5	5	6	6	5	4	4	55
合計	126	123	123	127	125	128	128	129	131	119	118	118	1495

(名)



終了者の事由内訳

事由	人数
賢樹苑 入所	3名
賢樹苑いずみ 入所	3名
他施設 入所	9名
地域包括支援センター移管	2名
長期入院	7名
死去	13名
小規模多機能へ移行	2名
サービス利用なし	3名
事業所変更	1名
転居	3名

地域包括支援センター内訳	人数
地域包括支援センター	16名
双葉ヶ丘包括	5名
虹の丘包括	5名
南光台包括	2名
泉中央包括	1名
南中山包括	0名
八乙女包括	1名
台原包括	1名

新規紹介先内訳

紹介先	人数
地域包括支援センター	30名
老人保健施設退所	0名
入院中の病院	0名
他居宅からの引き継ぎケース	0名
家族、本人より直接連絡	12名
その他(同居家族、家族からの紹介など)	0名
サービス事業所からの紹介	5名
総合相談	0名

2020年度 法人本部事務局（総務・業務）事業報告

I 基本方針・重点目標

基本方針

A：80%以上（大方）達成している B：50～80%未満（半分以上）程度達成している C：50%未満の達成状況

基本方針	達成度	コメント
笑顔で対応、笑顔でサポート。地域、ご利用者、施設、職員を繋ぎます。元気で安全、居心地の良い環境を作ります。	B	常に笑顔や落ち着いた態度で接するよう心がけ、居心地の良い環境となるよう努めた。訪問者や電話の対応では相手の意図を読み取り素早く対応している。

重点目標

A：80%以上（大方）達成している B：50～80%未満（半分以上）程度達成している C：50%未満の達成状況

重点目標	達成度	コメント
1. 災害への備えを万全にし、災害発生時に迅速に対応できる態勢を整える	B	災害用物品の備蓄状況や使用状態の点検を定期的実施。2月、3月の地震発生時に設備が停止した際、担当者が来るまで復帰できなかつたため、今後は手順書を整備してすぐに復旧できるようにしていく必要がある。 また、安否確認システムの登録率や訓練参加率の向上に努めたが、一時80%台前半にまで下がった参加率を前年度後半並（80%台後半）に戻した結果となった。
2. 成果につながる業務の効率を上げ、生産性を向上させる	B	会計ソフト等の効果的な活用により、資料や書類作成の効率が上がっている。また、職員間の連携の強化や、資料等を共有で可視化できるようにすることによって生産性が向上した。
3. 職員間の交流・連携の強化を支援する	B	感染症防止の観点から交換研修等は実施されず。コロナ禍の影響で人手が足りなくなった部署に積極的に協力を行った。
4. 利用者、職員がより良く過ごせるように居住環境、職場環境を整えていきます。	B	新型コロナの感染流行により「よりよく過ごす」から「感染を防ぐ」ことを重点に環境整備を行った。また、感染症予防のための物品の確認と確保に努めた。

【 総 務 】

A : 80%以上 (大方) 達成している B : 50~80%未満 (半分以上) 程度達成している C : 50%未満の達成状況

年 間 重 点 目 標	達成度	コメント
・災害への備えを万全にし、災害発生時に迅速に対応できる態勢を整える。	B	災害用物品の備蓄状況や使用状態の点検を定期的実施。2月、3月の地震発生時に設備が停止した際、担当者が来るまで復帰できなかつたため、今後は手順書を整備してすぐに復旧できるようにしていく必要がある。 また、安否確認システムの登録率や訓練参加率の向上に努めたが、一時80%台前半にまで下がった参加率を前年度後半並（80%台後半）に戻した結果となった。
・成果につながる業務の効率を上げ、生産性を向上させる。	B	会計ソフト等の効果的な活用により、資料や書類作成の効率が上がっている。また、職員間の連携の強化や、資料等を共有で可視化できるようにすることによって生産性が向上した。
・職員間の交流・連携の強化を支援する。	B	感染症防止の観点から交換研修等は実施されず。コロナ禍の影響で人手が足りなくなった部署に積極的に協力を行った。
・職員が働きやすい環境を整えます。	B	新型コロナの感染流行により「よりよく過ごす」から「感染を防ぐ」ことを重点に環境整備を行った。また、感染症予防のための物品の確認と確保に努めた。

【 業 務 】

A : 80%以上 (大方) 達成している B : 50~80%未満 (半分以上) 程度達成している

C : 50%未満の達成状況

年 間 重 点 目 標	達成度	コメント
・各部署との連携を密にし、職場環境・居住環境の向上を目指し、サービス面・ケア面でのレベルアップを図る。	B	・加湿器の補水作業への協力し、感染拡大防止及び予防に努めた。 ・上谷川施設への配食に向けて、物品購入、配車等積極的に関わりスムーズな移行に協力 ・感染予防のため、共有スペース・公用車のゾーニング、消毒の実施
・ご利用者の地域参加への積極的協力。	C	・コロナ禍で実施する事ができなかった。
・長期修繕計画に沿って、予防保全の実施。 (空調機器・床等の更新)	B	・空調設備の更新 (エアコン、換気扇) ・エレベーターの非常用バッテリー交換、作動油交換の実施

<ul style="list-style-type: none">・災害への備えを万全にし、災害発生時に迅速に対応できる態勢を整える。	B	<ul style="list-style-type: none">・停電からの復旧時のマニュアル作成を実施。・分電盤の配置図、ブレーカ位置等のデータ化を実施。
--	---	---

2020年度 事業推進・地域支援室 事業報告

I 基本方針・重点目標

基本方針

A：80%以上（大方）達成している B：50～80%未満（半分以上）程度達成している C：50%未満の達成状況

基本方針	達成度	コメント
社会情勢を注視し、中長期的展望で効果的かつ持続性のある取り組みや手法の検討を行い実践する。	B	採用を主とした事業推進事業ならびに地域貢献事業については感染症等の状況を見ながら活動を行ってきたが、実行可能な手段を模索し各事業でアプローチを行ったことは今後の基準にもなったと感じられる。当面現在の状況は続くことが予測されるため引き続き効果的な手段を検討しながら活動の継続を行っていくこととしている。

【事業推進】

重点目標

A：80%以上（大方）達成している B：50～80%未満（半分以上）程度達成している C：50%未満の達成状況

重点目標	達成度	コメント
○職員の確保	B	新卒は4名入職している。中途採用に関しては、年度内中に安定稼働に繋がられる人員確保はできず。
○職員定着・連携の支援	B	下半期は施設間の動きについても限定され、上谷刈拠点中心の支援が多くなった。2021年度は制約がある中でもやれる事について活路を見出したい。
○広域的な視点を持ち、多様な事業に関する情報収集を行う	B	感染症下での運営に関する情報収集、提案が多かった。

II 職種別の実践目標

A : 80%以上 (大方) 達成している B : 50~80%未満 (半分以上) 程度達成している C : 50%未満の達成状況

年間重点目標	達成度	コメント
・新卒の確保に努めると共に、経営状況に応じ欠員発生時の入職の斡旋に努める。	B	感染症の影響下における採用活動は、様々な制約の中で行う事となり、模索しながらの動きを強いられた。
・2019年度に敷いた職員育成プログラムの検証を行う。また、法人内の事業所の懸け橋となれるよう支援、企画を行う。	C	下半期は法人内の横断的な交流も難しく、限定された範囲の中でしか、情報の共有、支援はできていない。
・新規事業等に関する情報収集を行う。他施設等の好事例については関係部署へ随時情報提供を行っていく。その他、地域における情報収集に努めていく。	B	感染症下での運営に関する情報収集、提案、整備が多く、終始守りの姿勢で臨んでいた。

【地域支援室】

重点目標

A : 80%以上 (大方) 達成している B : 50~80%未満 (半分以上) 程度達成している C : 50%未満の達成状況

重点目標	達成度	コメント
○2018年度から2020年度まで活動の検証と今後への整備	B	これまで過去2年で実施してきた活動については振り返りを行い良かった点、改善すべき点などについて検証した中、新たな事業等の起案も行っているが2020年度においては社会情勢がこれまでのものと一変しており計画自体の軌道修正を迫られた。
○新たな地域貢献事業の創出	C	双葉ヶ丘拠点での起案していた地域高齢者向け買い物支援活動については新型コロナウイルス感染症流行に伴い実施を見合わせている。市中状況を見ながら開始の時期を模索していきたい。
○他団体との連携の強化	A	コロナ禍においてもこれまで築いてきた関係団体との連携を維持できるよう、感染症に留意した中で定期的に情報交換を行っている。またその中では新たな地域向けの活動等についても創出することができた。

II 職種別の実践目標

A：80%以上（大方）達成している B：50～80%未満（半分以上）程度達成している C：50%未満の達成状況

年間重点目標	達成度	コメント
<ul style="list-style-type: none"> これまで行ってきた地域貢献活動（地域サロン支援、介護予防教室等の地域支援、高齢者買い物支援、独居世帯におけるごみ出し支援、児童支援、多団体連携企画事業等）の検証を行い、現在の社会的、地域的ニーズと照らし活動の継続、廃止、バージョンアップ等の検討を行う。 	B	<p>地域支援室立ち上げから行ってきた活動についての検証を実施している。これまで行ったきた活動では少なからず地域への貢献や地域住民からの法人の理解なども得られることが出来たと感じられており、2020年度では新たな活動の起案や法人側での居力体制の整備も進めていたが、新型コロナウイルス感染症の流行によりこれまでと同じ形での事業や新たな事業を開始することは叶わず。一時的に休止という形を取りながら今後の再開を目標としていく。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 地域ニーズに照らした新たな地域貢献事業を創出する。 	C	<p>上記の通り市中状況や法人の感染症対策の兼ね合いよりほとんどの地域貢献活動については休止としている。（上谷刈における買い物支援事業については2020.7に一時再開し、8月には再度休止している。）泉中央包括からの依頼にて2020.9（野村地区4回）と2020.11（七北田地区4回）の計8回地域向け介護予防教室の講師を受諾し実施。様々な制限もある中ではあったが許される範囲の中、感染症に十分注意した形で実施を行っている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 両拠点（泉区、青葉区）において他団体との連携を深め、各地域を面で支援できるような企画や共同事業の検討を行う。 	A	<p>地域支援室にてマネジメントを行い法人職員の協力を得ながら各拠点で関係機関との情報共有を行っている。（双葉ヶ丘拠点においては鈴木副苑長に中心としてご協力頂いている）地域活動では施設内に近隣住民を招くことや職員が直接支援者になることが困難な状況でもあったため、地域住民（市営住宅入居者等）に向け定期的な手紙の配布などを実施。（上谷刈拠点）双葉ヶ丘拠点では新たな取り組みとして地域での清掃活動等にも法人として参加することが出来た。（双葉ヶ丘包括等近隣団体との連動事業）</p>